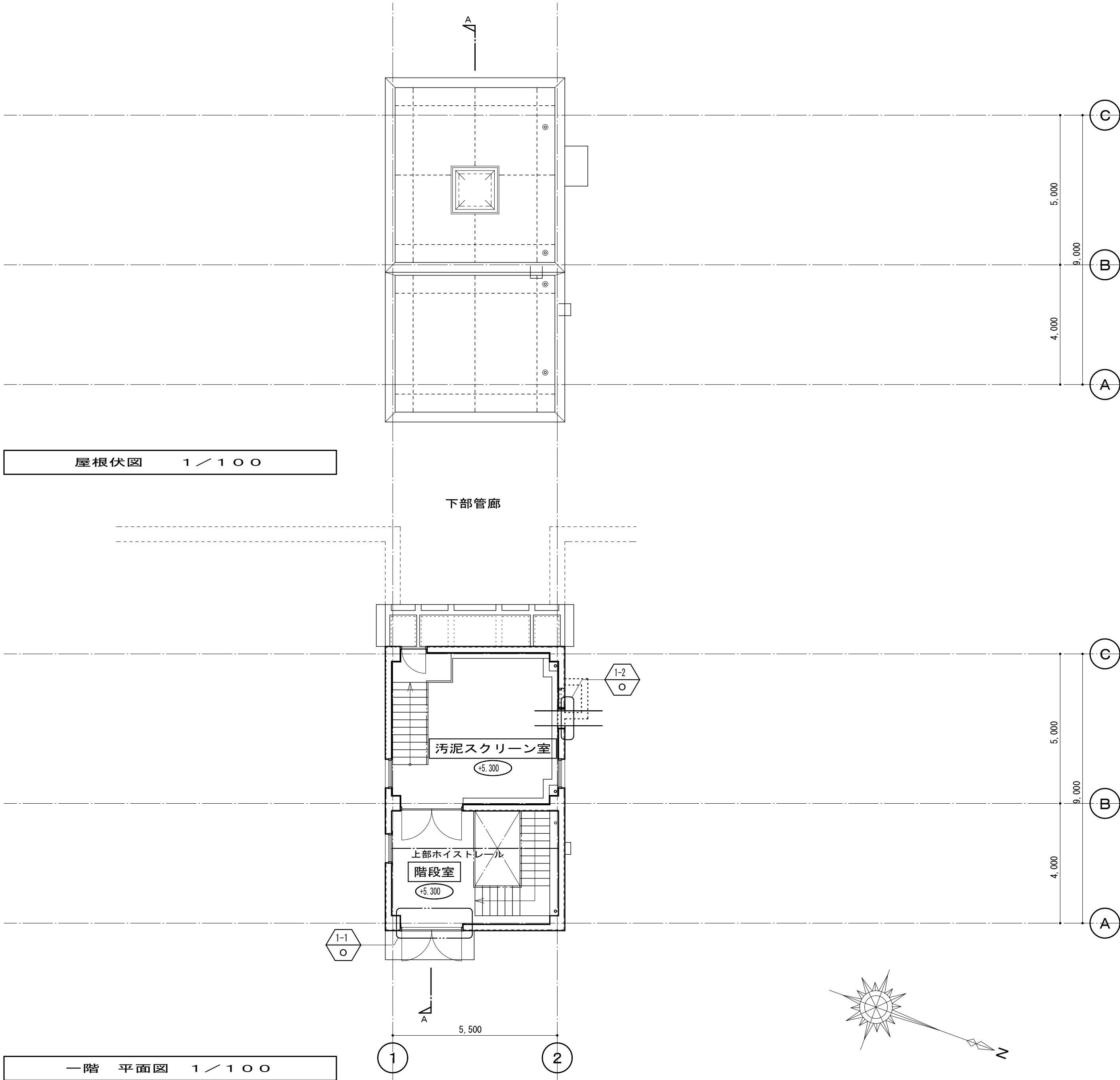


仕 上 表		略 号		外部付属物及び詳細番号		内部付属物及び詳細番号									
共通事項															
1. 外部仕上表及び内、外部付属物の適用分類、詳細番号は、○印のついたものを適用する。	C	コンクリート	複層塗材（E）	合成樹脂エマルジョン系複層仕上塗材	・ 屋上点検口	・ 5－21－1	・ 図示	・ グレーチング	・ 図示	・ 流し台	・ 図示	・ カーテンボックス	・ 鋼 製	・ 3－31－1、2	
2. 仕上表に記載の詳細番号のうち、(例)10－2－3は建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）を示す。	CB	コンクリートブロック	複層塗材（CE）	ポリマーセメント系複層仕上塗材	・ 屋上管類貫通部	・ 5－22－1	・ 図示	・ クーリングタワー基礎	・ 5－22－2	・ 5－22－3	・ フード	・ 図示	・ ブラインドボックス	・ アルミ製	・ 3－32－5、6、7
3. 特記以外の木、鉄部の塗装はSOPとする。但し、和室廻りは除く。	W	木造	複層塗材（RE）	反応硬化形成樹脂エマルジョン系複層仕上塗材	・ テレビアンテナ基礎			・ 電気用ハンドホール蓋	・ 図 示		・ コンロ台	・ 図示		・ アルミ製	・ 図示
4. 付属物のうち、室名札、床点検口、掲示板、案内板、ビクトグラフ、階数表示板等は、平面図による。	LGS	軽量鉄骨	複層塗材（S i）	けい酸質系複層仕上塗材	・ 屋上換気塔	・ 5－21－2	・ 図 示	・ 文字板	・ 図 示		・ 流し上部水切り	・ 図示	・ 屋内掲示板	・ 既製品	
5. 付属物のうち、カーテンボックス、ブラインドボックス、ブラインド、天井点検口等は天井伏図による。	GB-R	せっこうボード	CL	クリヤラッカー塗り	・ 煙 突	・ 図 示		・ 庁名板	・ 図 示		・ つり戸だな	・ 図示	・ 手すり	・ アルミ	
6. P F板、木毛板等打込み箇所は、別図による。	GB-N C（N）	不燃積層せっこうボード（化粧無し：下地張り用）	A E	アクリル樹脂エナメル塗り				・ 郵便受	・ 図 示		・ 水切りだな	・ 図示	・ 階段手すり	・ アルミ	
7. 内壁の見え掛りとなるP F板打込み部分は、GB厚12. 5直張り（継目処理工法）とし、塗装は、その部屋の壁面と同様とする。	GB-N C（N T）	不燃積層せっこうボード（化粧有り：トラバーチン模様）	D P	耐候性塗料塗り				・ 目 地	・ 図 示	・ 2－02－9、10	・ 脱衣箱	・ 6－32－1		・ 7－12－6	
8. 壁のボード張りは水平方向には原則として継手は設けない。	GB-S	シージングせっこうボード	E P－G	つやや合成樹脂エマルションペイント塗り							・ 天井点検口	・ 3－42－2			
9. 天井仕上ボード張りのうち、GB－N C（N T）及びD R（下地GB共）は突付け張りとし、天井回り縁は、アルミ製、天井付き目地とする。	ケイカル板	けい酸カルシウム板（タイプ2）	E P	合成樹脂エマルションペイント塗り	・ と い	・ 5－31. 32. 33		・ たてどい	・ φ100（ステンレス製） （バンドレスタイプ）		・ 床点検口	・ 既製品	・ 断熱材打込み	・ 7－01－1	・ 7－01－2
10. 直接地業工事に接する内部床のコンクリート下地には、防湿層としてポリエチレンフィルム厚0. 15の数込みを行う。ただし、床仕上げがビニル床タイル、ビニル床シート及び合成樹脂塗床、床用塗料の場合とする。	D R	ロックウール化粧吸音板	U C	ウレタン樹脂ワニス塗り	・ ルーフドレン	・ 5－32－1					・ 便所へだて	・ 既製品	・ 6－22－1		
11. 打放し仕上げの出隅部分は、面取りを行う。	D R（凹凸）	ロックウール化粧吸音板	O S	オイルステイン塗り	・ 手すり	・ 5－33－1					・ 躯体不自由者便所	・ 6－23－1、2、3、4	・ 押 入	・ 6－46－1	
	D R（軒天）	ロックウール化粧吸音板	S O P	合成樹脂調合ペイント塗り	・ トップライト	・ 図 示					・ 便所手すり	・ 6－22－5、6	・ ホイストレール	・ 図 示（溶融亜鉛メッキ）	
	D R（軒天凹凸）	ロックウール化粧吸音板	N A D	アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り	・ E X P. J全物	・ 既製品		・ 足洗い場	・ 図示		・ トラフ	・ 1－21－	・ クレングァーダー	・ 図 示（溶融亜鉛メッキ）	
	P F板	押出法ポリスチレンフォーム保温材	L E	ラッカーエナメル塗り	・ 手すり	・ アルミ（図示）		・ マンホール蓋	・ 図示		・ 搬入口	・ 図 示	・ マンホール蓋	・ 図 示（土木工事）	
	木毛板	木質系セメント板	W P	木材保護塗料塗り		・ ステンレス（図示）		・ 合成木材製蓋	・ 図示		・ タップ	・ 8－31－1	・ 室名札	・ 8－43－1	
	T B	テラゾーブロック				・ スチール（図示）		・ 角差し	・ 図示		・ 足掛金物	・ 図示	・ ビクトグラフ	・ 8－44－1	
	外装薄塗材（E）	外装合成樹脂エマルション系薄付け仕上塗材			・ 旗 竿	・ 図 示		・ 落し込み式取手	・ 図示		・ フック	・ 図示	・ 庁舎案内板、各階案内板	・ 8－41－1	
	C（B）	コンクリート打放し（B）			・ くつろぎマット	・ 8－21－1、2、3		・ ステンレス製蓋	・ 図示		・ グレーチング受枠	・ 図示	・ 下足箱	・ 図示	
	C（C）	コンクリート打放し（C）			・ タラップ	・ 8－31－1、2、3		・ 丸理	・ 図示		・ 浴室まわり	・ 6－31－			
	M	モルタル			・ 屋上点検口	・ 図示		・ 室外機基礎	・ 5－22－2						
	軽量吹付	軽量骨材仕上塗材						・ 足掛金物	・ 図示						

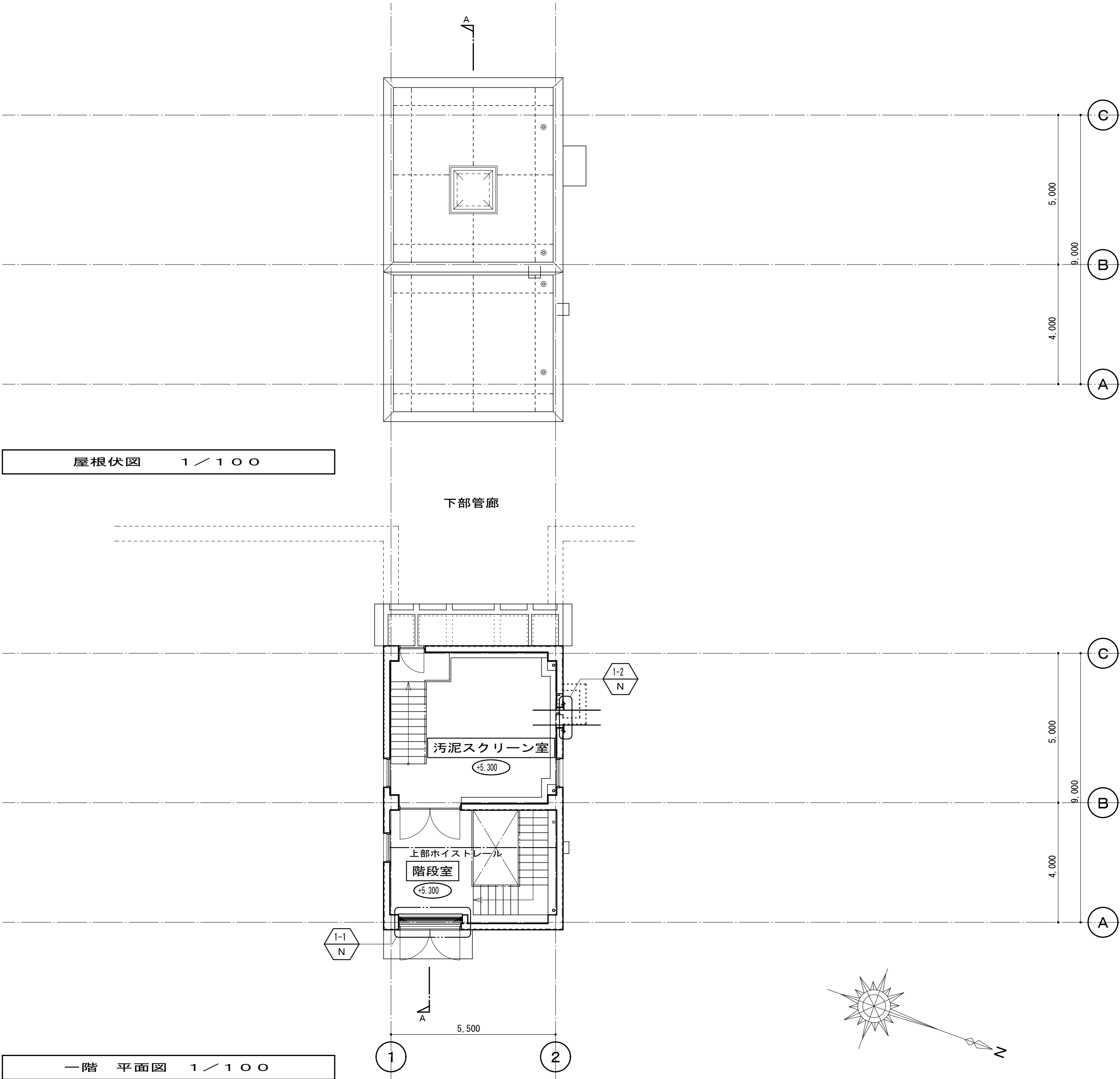
[illegible][illegible][illegible]

改 修 前



改修内容一覧表			
凡 例	改修箇所	改修内容	撤去概要
	1F 階段室	防水板 設置	床コンクリート新設部 目荒し
	外壁	ダクト部 耐水化	外壁仕上 撤去

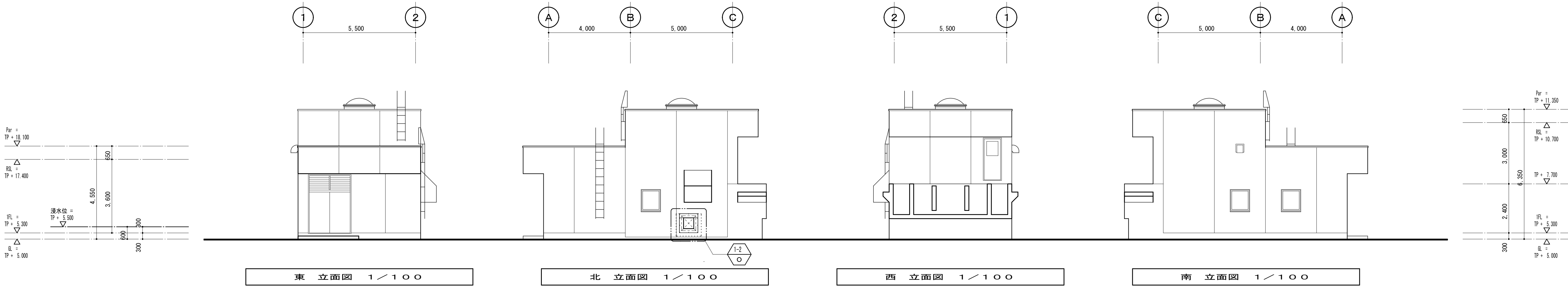
改 修 後



改修内容一覧表			
凡 例	改修箇所	改修内容	新設概要
	1F 階段室	防水板 設置	防水板 新設 RC袖壁 新設 床コンクリート 新設 ステンレスノンスリップ 新設
	外壁	ダクト部 耐水化	ステンレスダクトカバー 新設

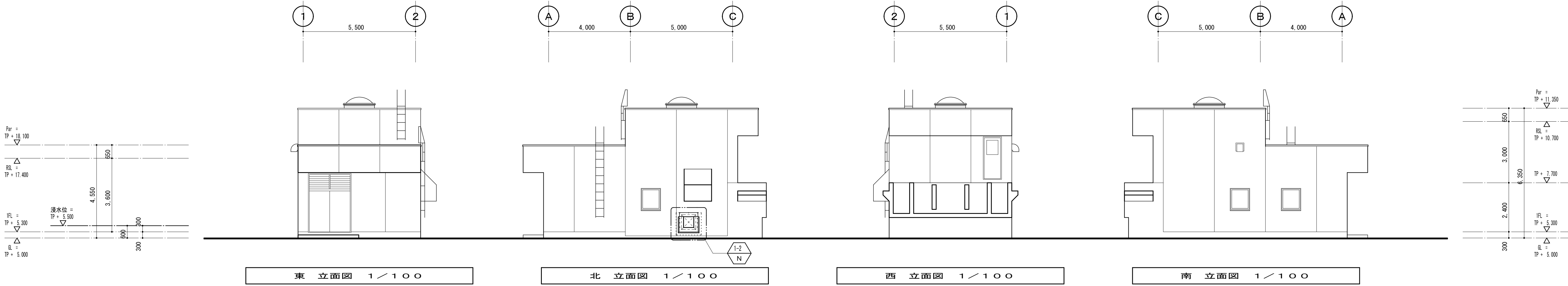
工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A2- 2
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	汚泥濃縮槽 階段室 耐水化改修 平面図		
縮 尺	—		
設計年月日	令和 7 年 2 月 2 8 日		
新 潟 県 上 越 市			

改 修 前



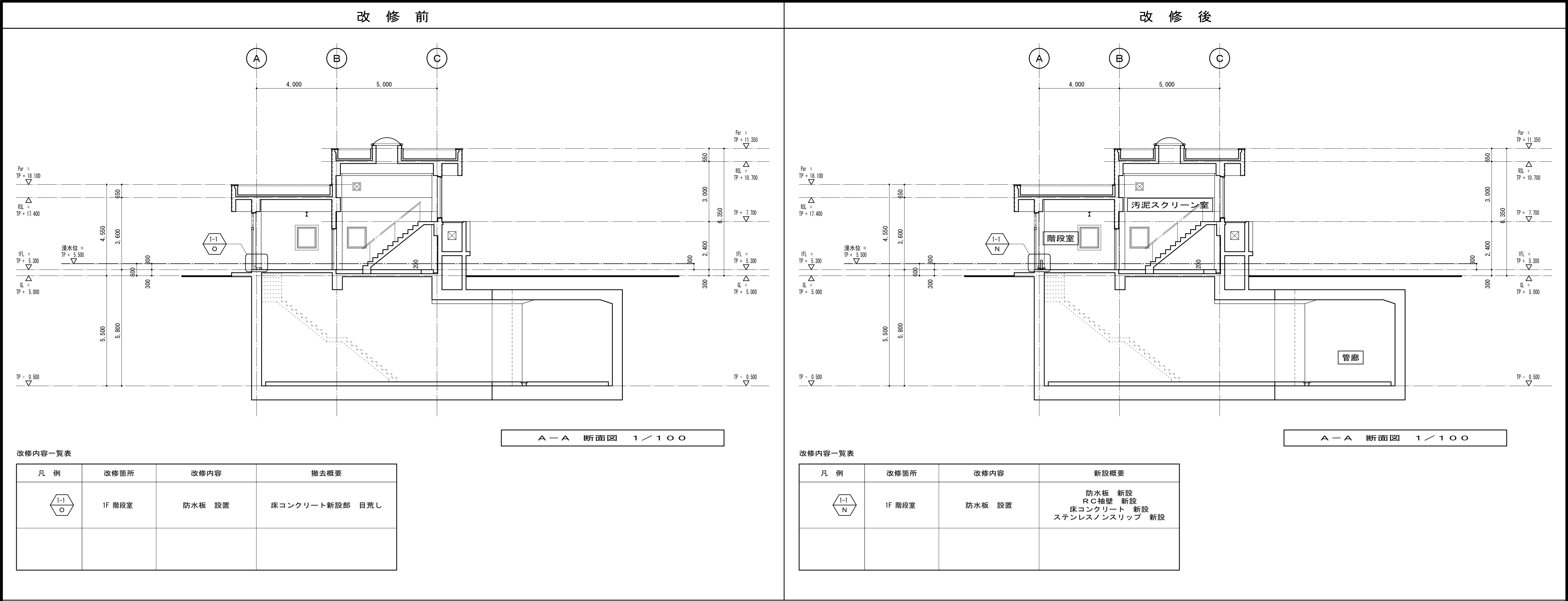
改修内容一覧表			
凡 例	改修箇所	改修内容	撤去概要
	外壁	ダクト部 耐水化	外壁仕上 撤去

改 修 後

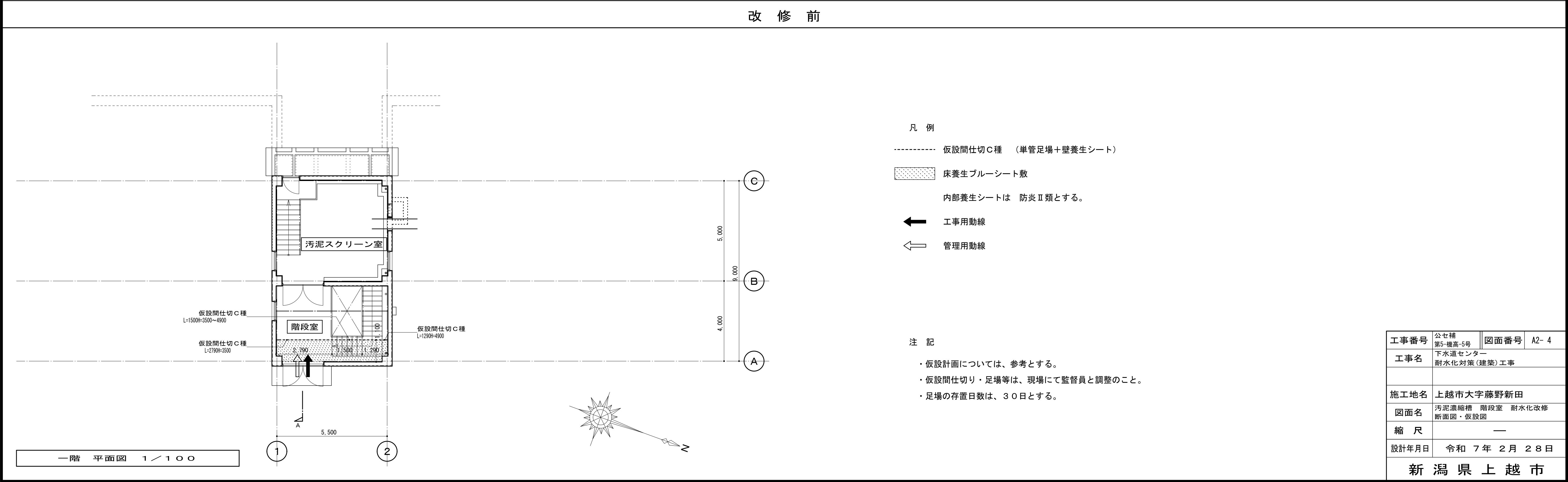


改修内容一覧表			
凡 例	改修箇所	改修内容	新設概要
	外壁	ダクト部 耐水化	ステンレスダクトカバー 新設

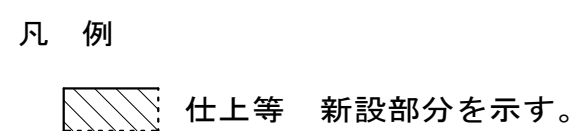
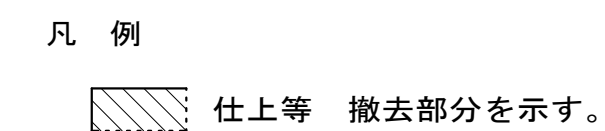
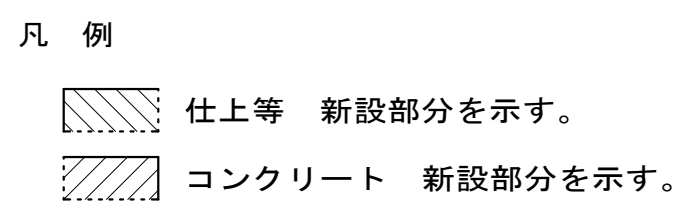
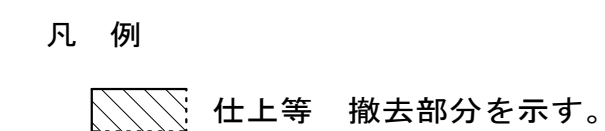
工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A2- 3
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	汚泥濃縮槽 階段室 耐水化改修 立面図		
縮 尺	—		
設計年月日	令和 7 年 2 月 2 8 日		
新 潟 県 上 越 市			




仮設図



工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A2- 4
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	汚泥濃縮槽 階段室 耐水化改修 断面図・仮設図		
縮 尺	—		
設計年月日	令和 7 年 2 月 2 8 日		
新 潟 県 上 越 市			

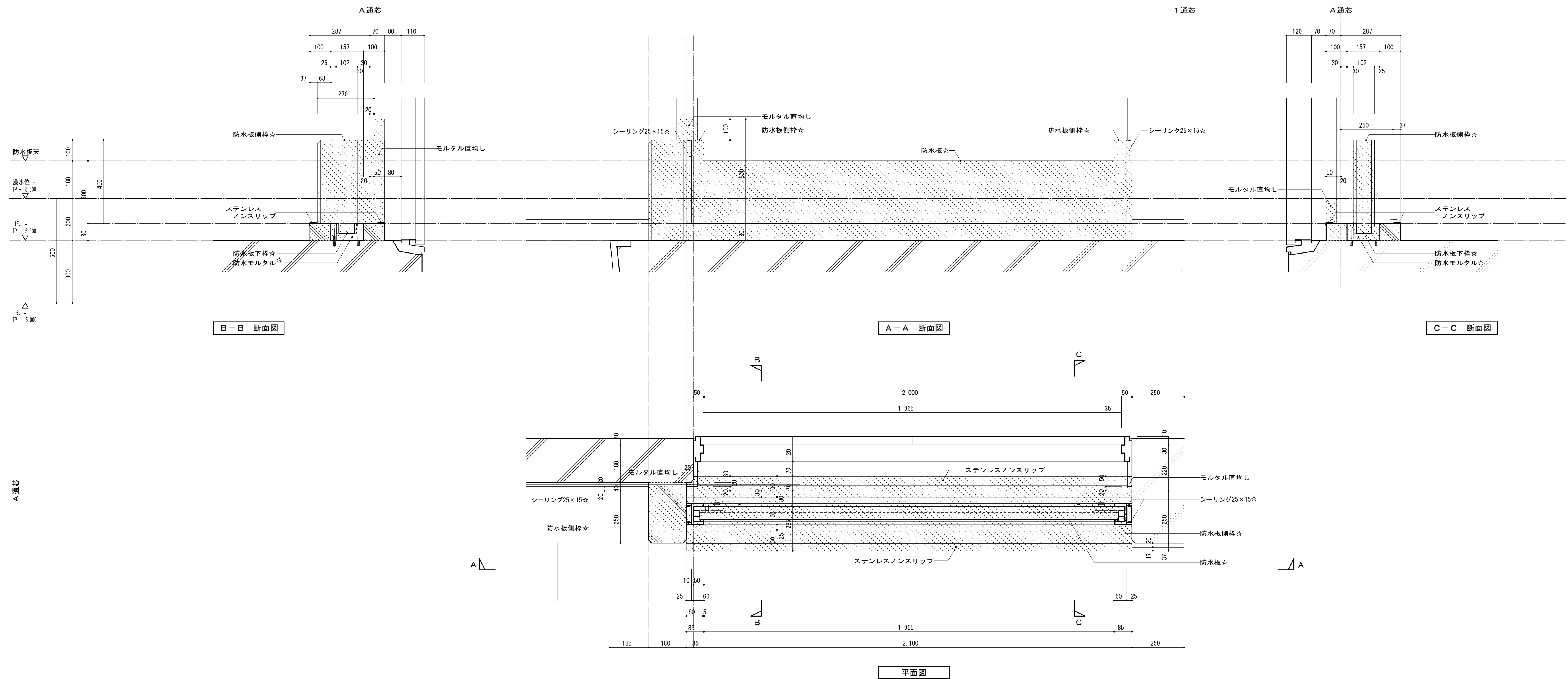


工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A2- 5
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	汚泥濃縮槽 階段室 耐水化改修 部分詳細図		
縮 尺	1/50		
設計年月日	令和 7 年 2 月 2 8 日		
新 潟 県 上 越 市			

注	※印は、撤去部分を示す。			
	仕上は 仕上表による。	 印は、撤去部分を示す。		
	◁ 印は、カッター入れを示す。			
	モルタル・コンクリート撤去部は カッター入れの上撤去の事。			
		本図は 参考図とし、施工図にて確認上決定の事。		

新 潟 県 上 越 市

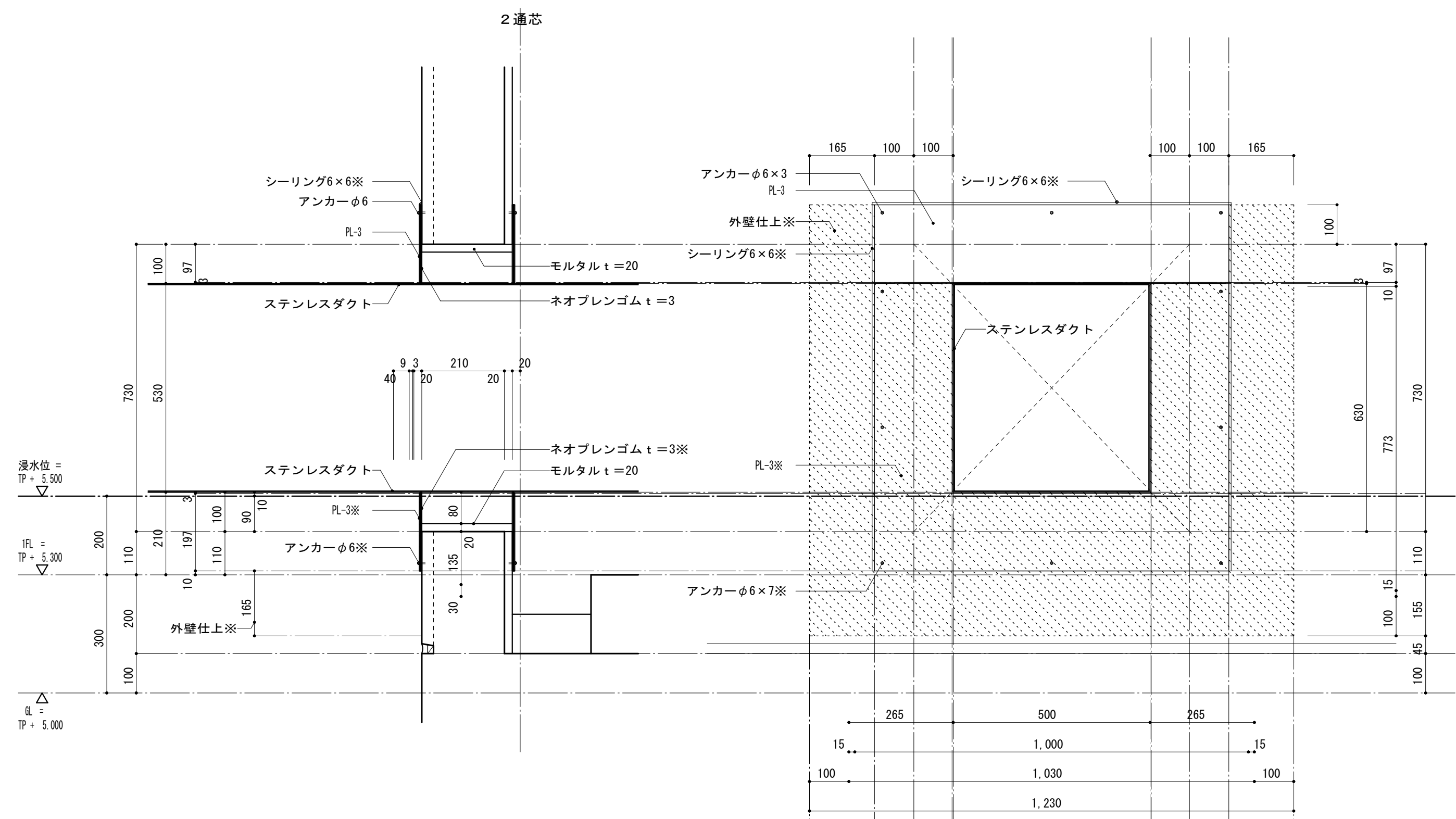
改修後



注 記	表記部分は、新設部分を示す。	印は、新設部分を示す。	コンクリート新設部の アンカー・配筋は 構造図による。
	仕上は 仕上表による。	新設鉄筋コンクリート部 既設コンクリートとの接触面は目荒しを行う事。	新設部コンクリート部仕上 床面：コンクリート直均し (a)、立上り：コンクリート打放し (B)
	☆印は、防水板工事を示す。	防水板は、(株)日本アルミ 脱着式防水板同等品とする。	新設防水板袖壁コンクリート部仕上 天端：コンクリート直均し (a) 側面：コンクリート打放し (B)。
		防水板下枠には、ステンレス蓋付とする。	
		本図は 参考図とし、施工図にて確認上決定の事。	印は、新設鉄筋コンクリートを示す。

工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A2- 7
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	汚泥濃縮槽 階段室 耐水化改修 雑詳細図 ( 2 )		
縮 尺	1 / 10		
設計年月日	令和 7 年 2 月 2 8 日		
新 潟 県 上 越 市			

改修前



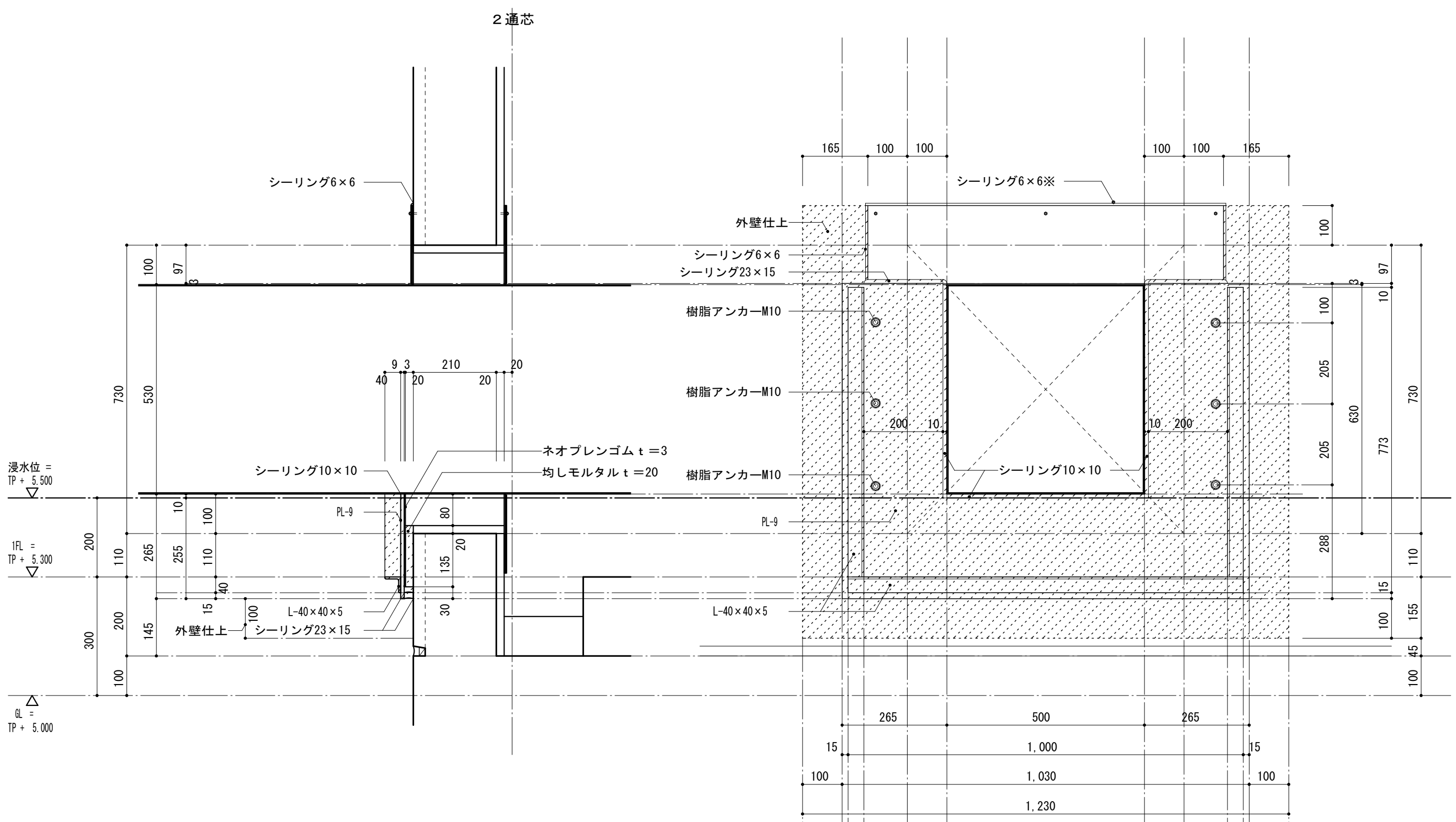
断面図

立面図

平面図

注 記	※印は、撤去部分を示す。	印は、撤去部分を示す。	
	仕上は 仕上表による。		
		鋼材は、ステンレスSUS304・HL仕上とする。	
		本図は 参考図とし、施工図にて確認上決定の事。	

改修後



断面図

立面図

平面図

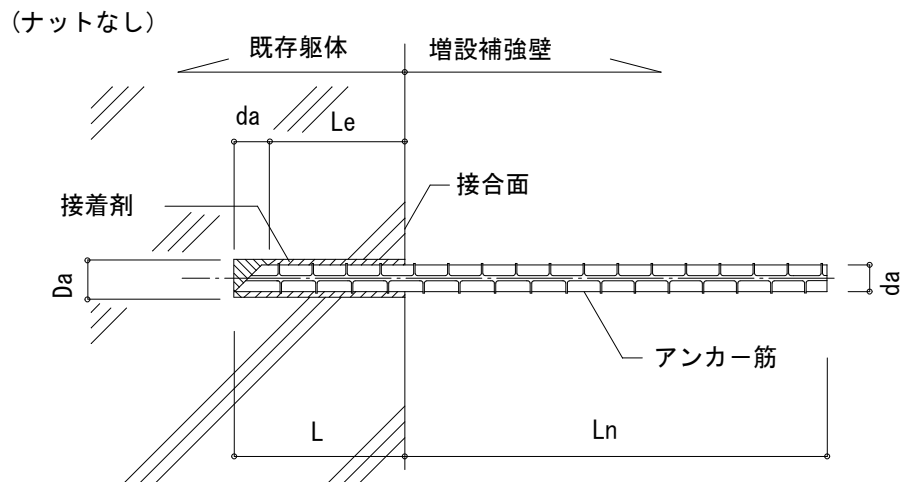
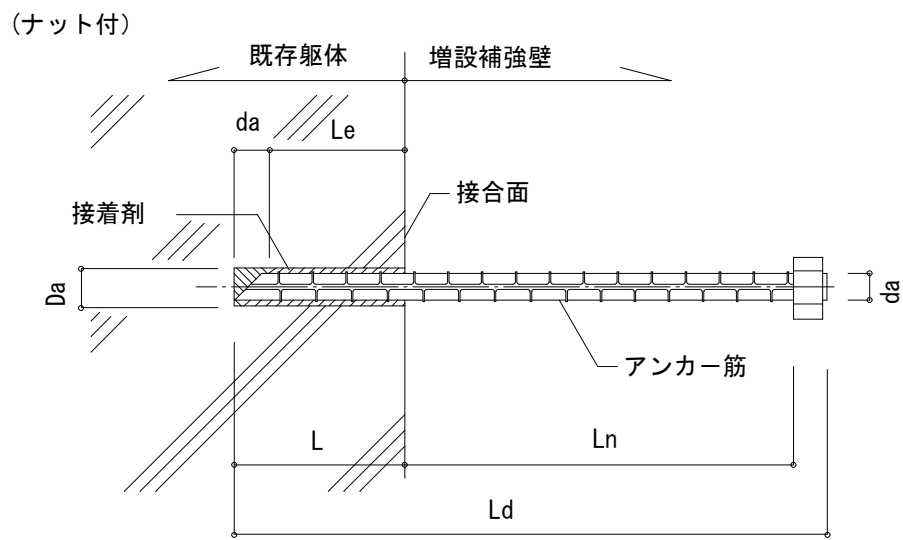
注 記	表記部分は、新設部分を示す。	印は、新設部分を示す。	
	仕上は 仕上表による。		
		鋼材は、ステンレスSUS304・HL仕上とする。	
		本図は 参考図とし、施工図にて確認上決定の事。	

工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A2- 8
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	汚泥濃縮槽 階段室 耐水化改修 雑詳細図 (3)		
縮 尺	1 / 10		
設計年月日	令和 7 年 2 月 2 8 日		
新 潟 県 上 越 市			



あと施工アンカー

(1) 接着系アンカー



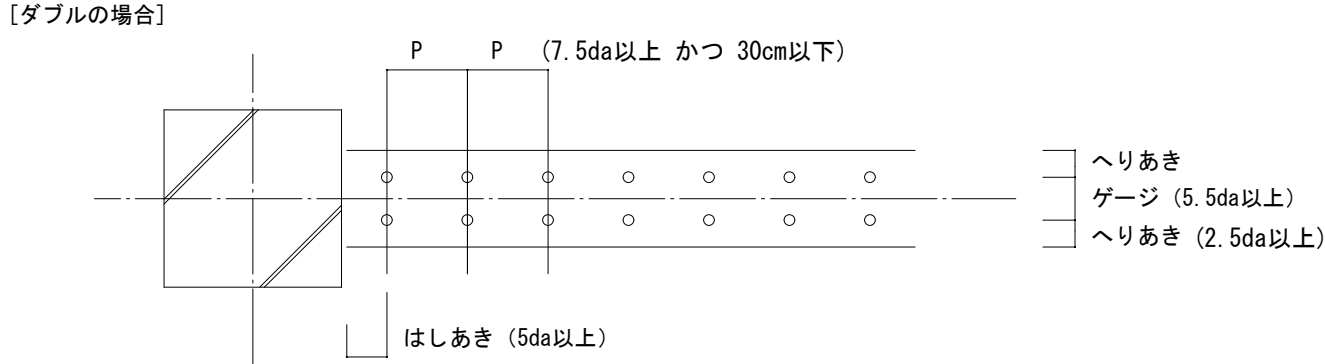
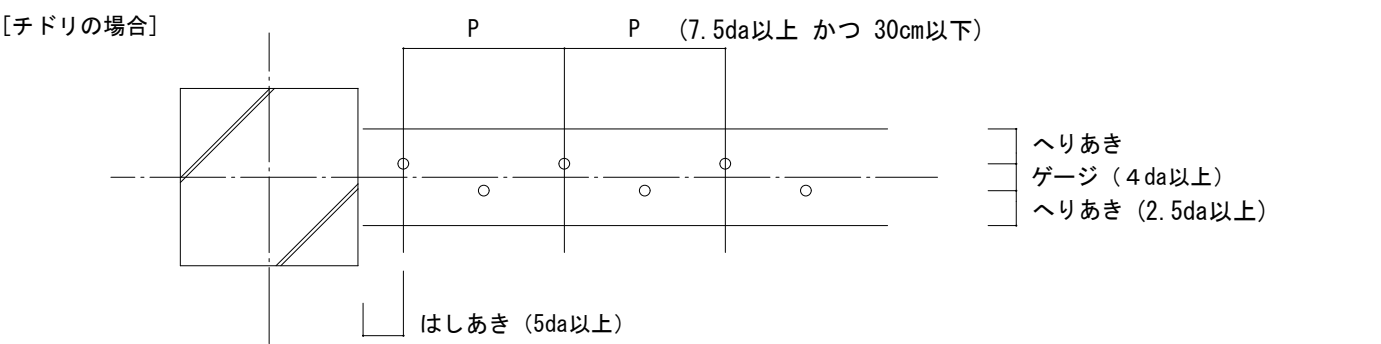
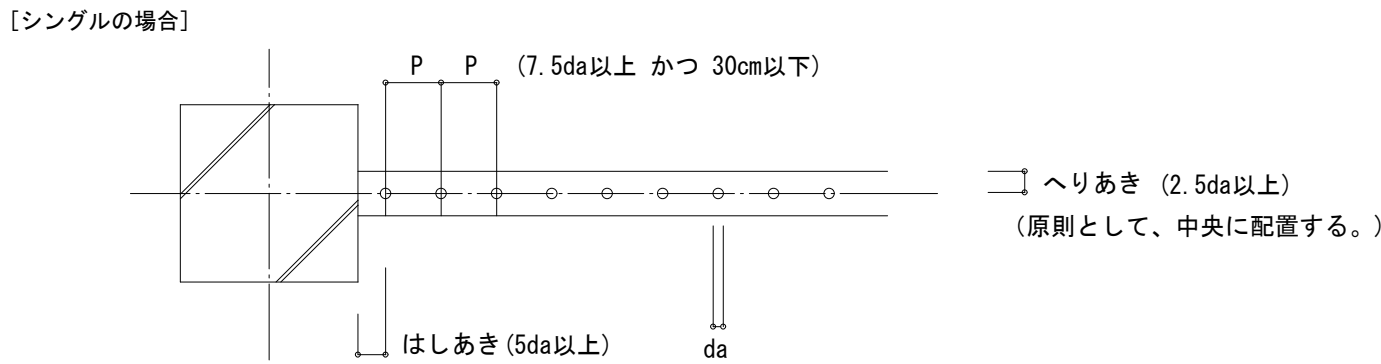
L : コンクリートの穿孔深さ、または接着系アンカーの埋め込み長さ  
Le : アンカーの有効埋め込み長さ  
Ld : アンカー筋の全長  
Ln : 有効定着長さ  
Da : 既存コンクリート躯体への穿孔径  
da : アンカー軸部の直径、アンカー筋の呼び名

アンカー関係共通事項		
接着系アンカーの有効	埋め込み長さ	一般部 : $L_e = 7 d_a$ 開口補強筋 : $L_e = 10 d_a$
	定着長さ	一般部 : $L_n = 20 d_a$ 開口補強筋 : $L_n = L_1 + 5 d_a$ (=補強筋との継手長さ+ナット山)
アンカー筋形状	ナット付き異形棒鋼(開口補強筋用はナットなし)とし、ナットからねじ山が2山以上でること。 また、先端形状は45°カットとする。	

施工確認試験荷重 (確認強度)		
アンカー筋呼び名 (da)	アンカーの有効埋込長さ (Le)	荷 重 (kN) 2/3をかけた値
D [ 13 ]	[ 7 ] da	[ 20.9 ]
D [ 13 ]	[ 10 ] da	[ 24.9 ]
D [ 16 ]	[ 7 ] da	[ 31.6 ]
D [ 16 ]	[ 10 ] da	[ 39.0 ]
D [ 19 ]	[ 7 ] da	[ 44.6 ]
D [ 19 ]	[ 10 ] da	[ 65.9 ]
D [ 22 ]	[ 7 ] da	[ 59.7 ]
D [ 25 ]	[ 10 ] da	[ 116.5 ]

確認強度は、計算で得られた、アンカーの鋼材による引張荷重又はコンクリート破壊による引張荷重(埋込みピッチ及びへりあきの影響を受ける場合は、低減した荷重)の小さい方の2/3程度の荷重。

(2) あと施工アンカーの位置と間隔



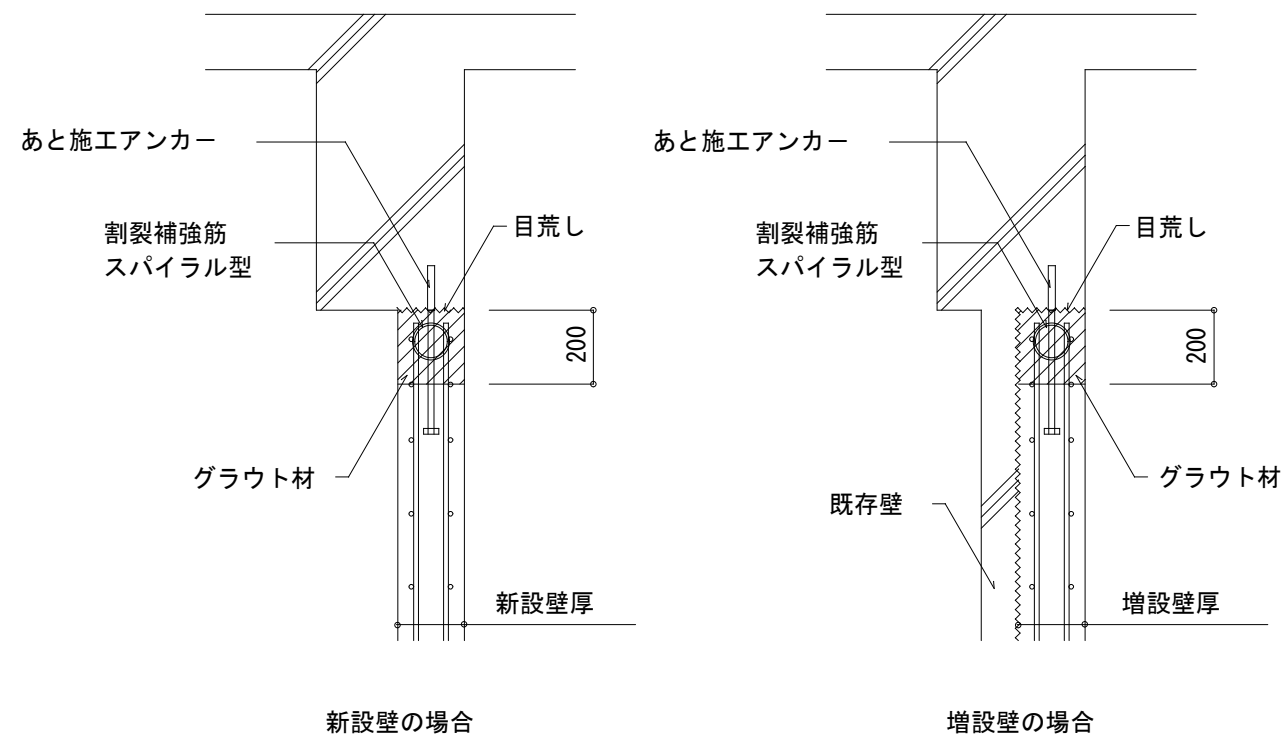
割裂補強筋配筋要領

- 割裂補強筋は、改修壁の柱・梁に接する面全てに配置する。
- 割裂補強筋は、スパイラル型とし、ピッチ、スパイラル径は下記による。
- 継手は、2巻以上の重ねとする。

壁 厚	スパイラル径	割裂補強筋	備 考
180	100	Φ6@50	
200	120	Φ6@50	
220	140	Φ6@50	
300	220	Φ6@50	

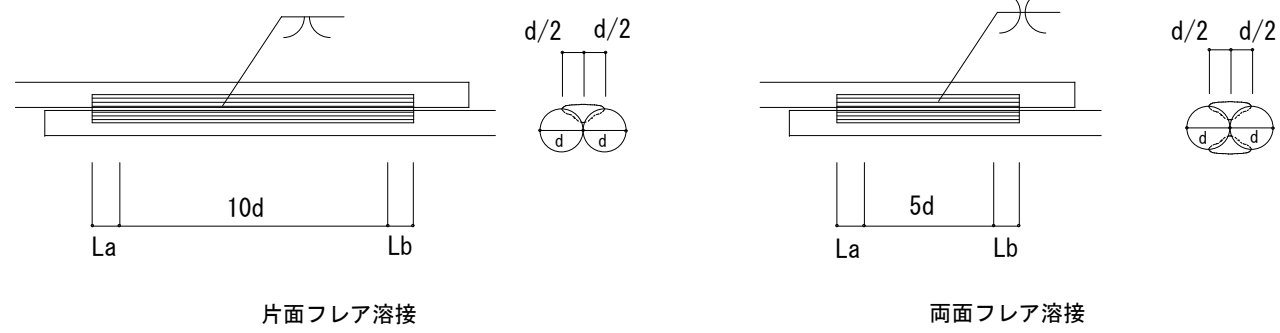
新設・増設壁上部グラウト要領

- 特記なき新設・増設壁上部は、グラウトを行う。

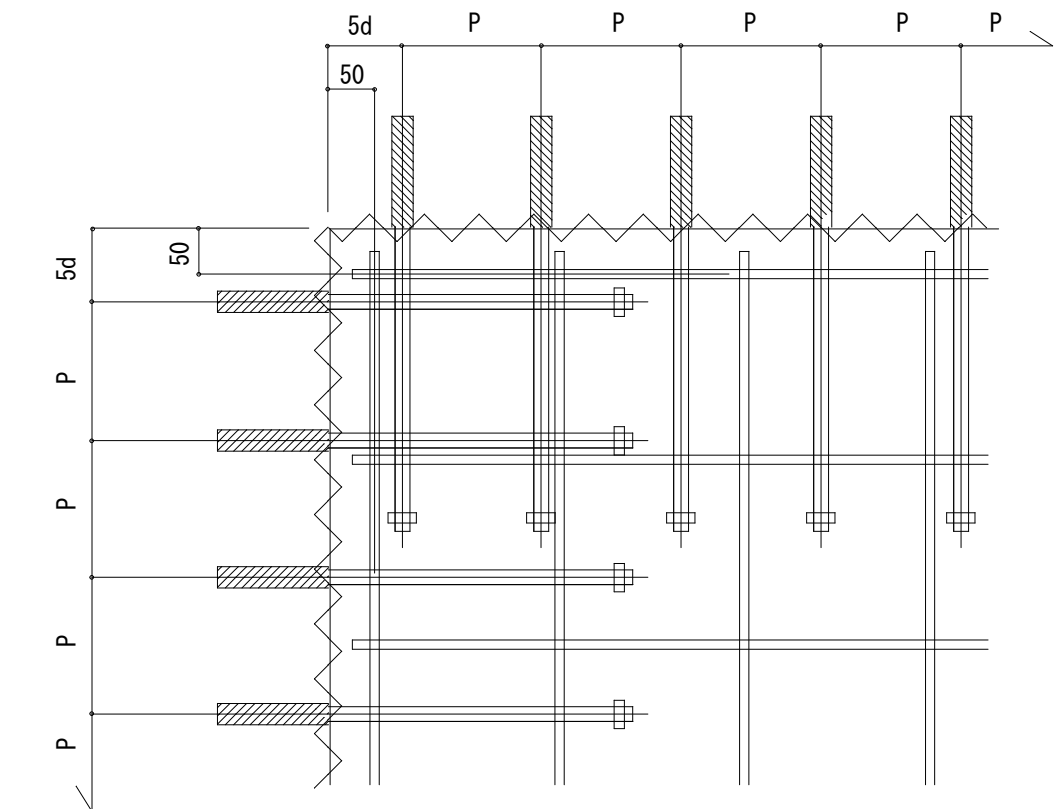


鉄筋フレア溶接要領

- 特記なき鉄筋のフレア溶接は、下図の片面または両面とする。
- 鉄筋のフレア溶接の溶接長さは、ビードの始点 (La) 及び、クレータ (Lb) を除いた部分の長さとする。但し、La 及び Lbは 2d以上とする。



アンカー筋ピッチ標準



既存壁等撤去要領図

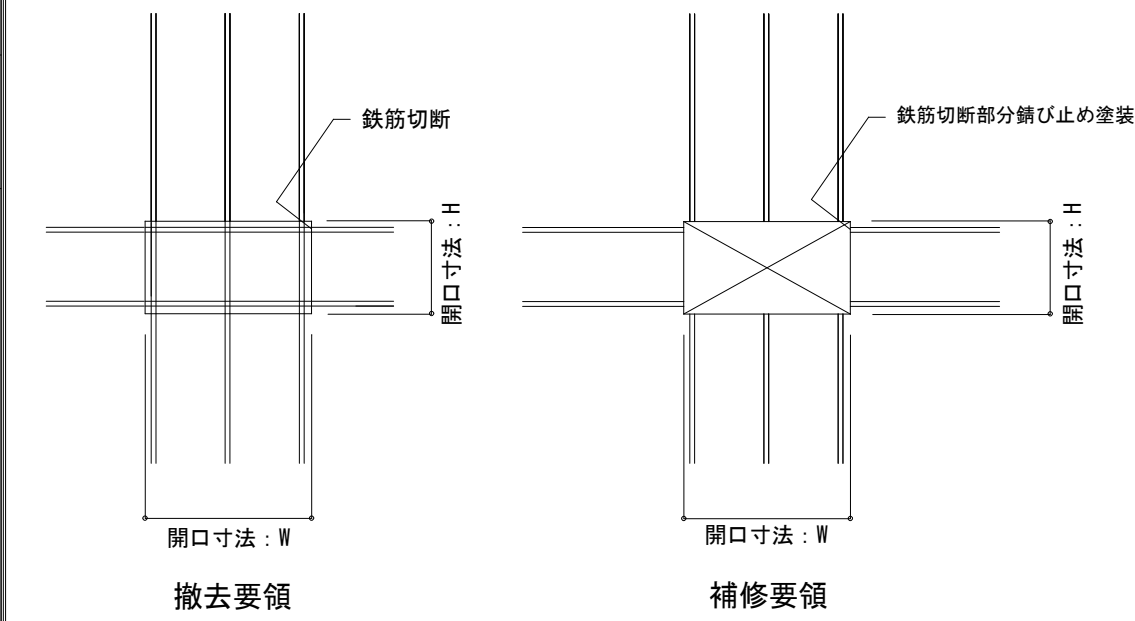
注記) 特記なき壁等の撤去は下図による。  
注記) ≧印は、コンクリートカッター位置を示し、カッター深さ30とする。  
注記) 鉄筋切断部には、錆止め塗装を行う。  
注記) 鉄筋はつり出しは、特記による。

撤去壁-梁 取合部 (撤去のみの場合)	撤去壁-スラブ 取合部	撤去壁-梁 取合部 (壁を新設する場合)
撤去壁-柱 取合部 (撤去のみの場合)	撤去壁-直交壁 取合部	撤去壁-柱 取合部 (壁を新設する場合)
撤去庇-梁 取合部		

新設壁開口配筋要領図 (※註：意匠図による)

- 床・壁にコア抜きにより先導孔を開ける。
- 各開口寸法に合わせ、コンクリートカッター及び、はつり出しにより開口部を開ける。
- 小開口部は切断面の補修 (錆び止め塗装) を施す。  
大開口部はあと施工アンカーにより、開口補強筋を設ける。  
開口補強筋を取り付けた後、内型枠に合わせグラウト材を充填する。

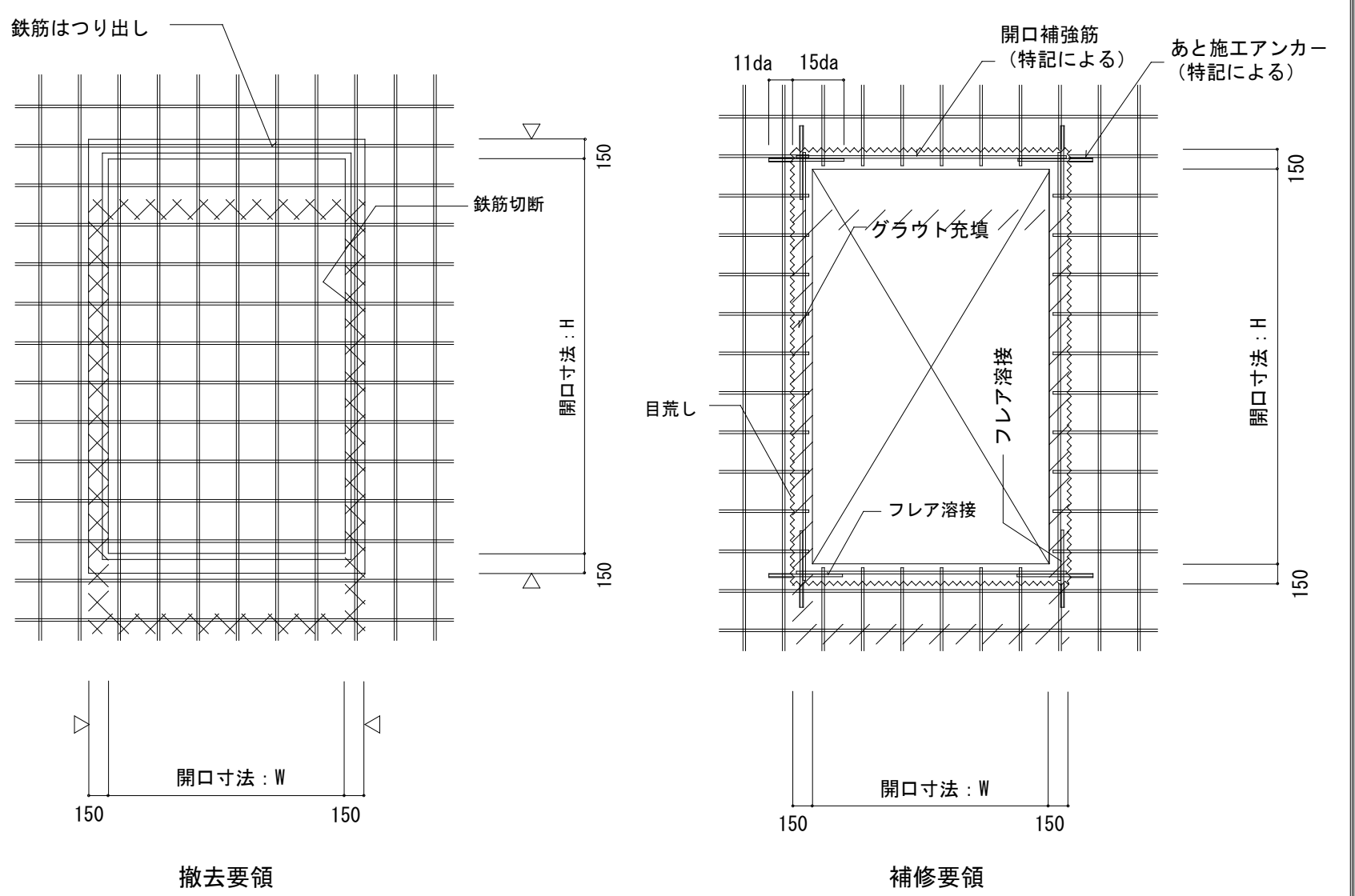
○小開口部 ・適用は特記による。



一般事項

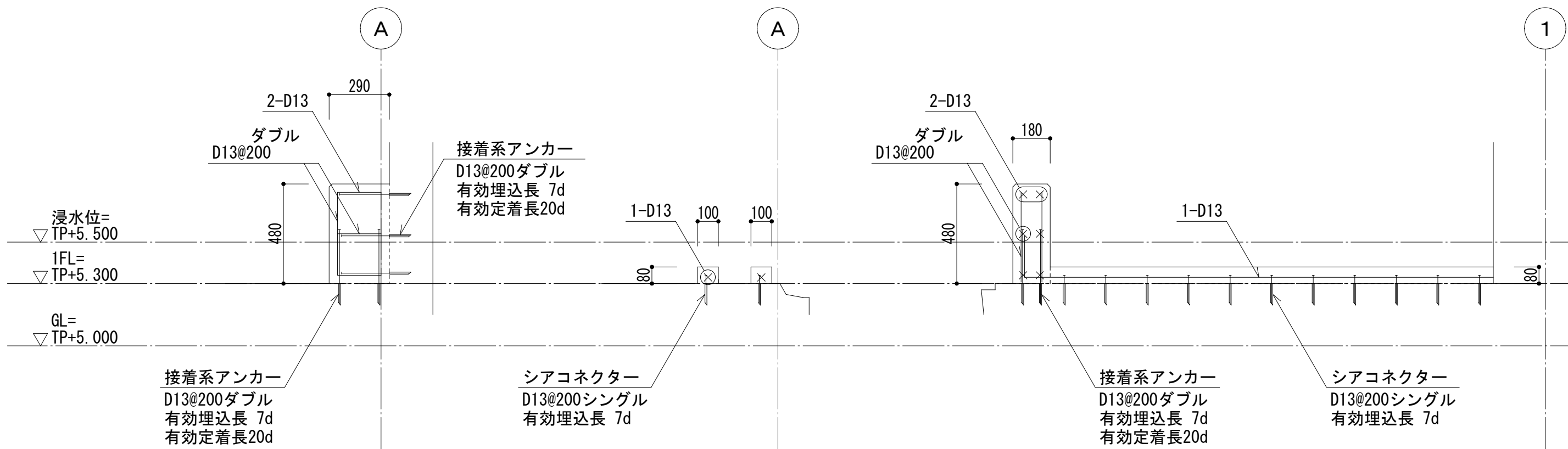
- 参考図書  
「2017年改訂版 既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計指針 同解説」  
日本建築防災協会／国土交通大臣指定耐震改修支援センター  
※第3章 補強部材・部位の設計  
※第4章 補強工事の施工

○大開口部 ・適用は特記による。



注記) ≧印は、コンクリートカッター位置を示し、カッター深さ30

工事番号	公セ補 第5機高5号	図面番号	S2-01
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	汚泥濃縮槽 階段室 改修標準詳細図		
縮 尺	—		
設計年月日	令和 7 年 2 月 2 8 日		
新 潟 県 上 越 市			



A 通り 1-2 間

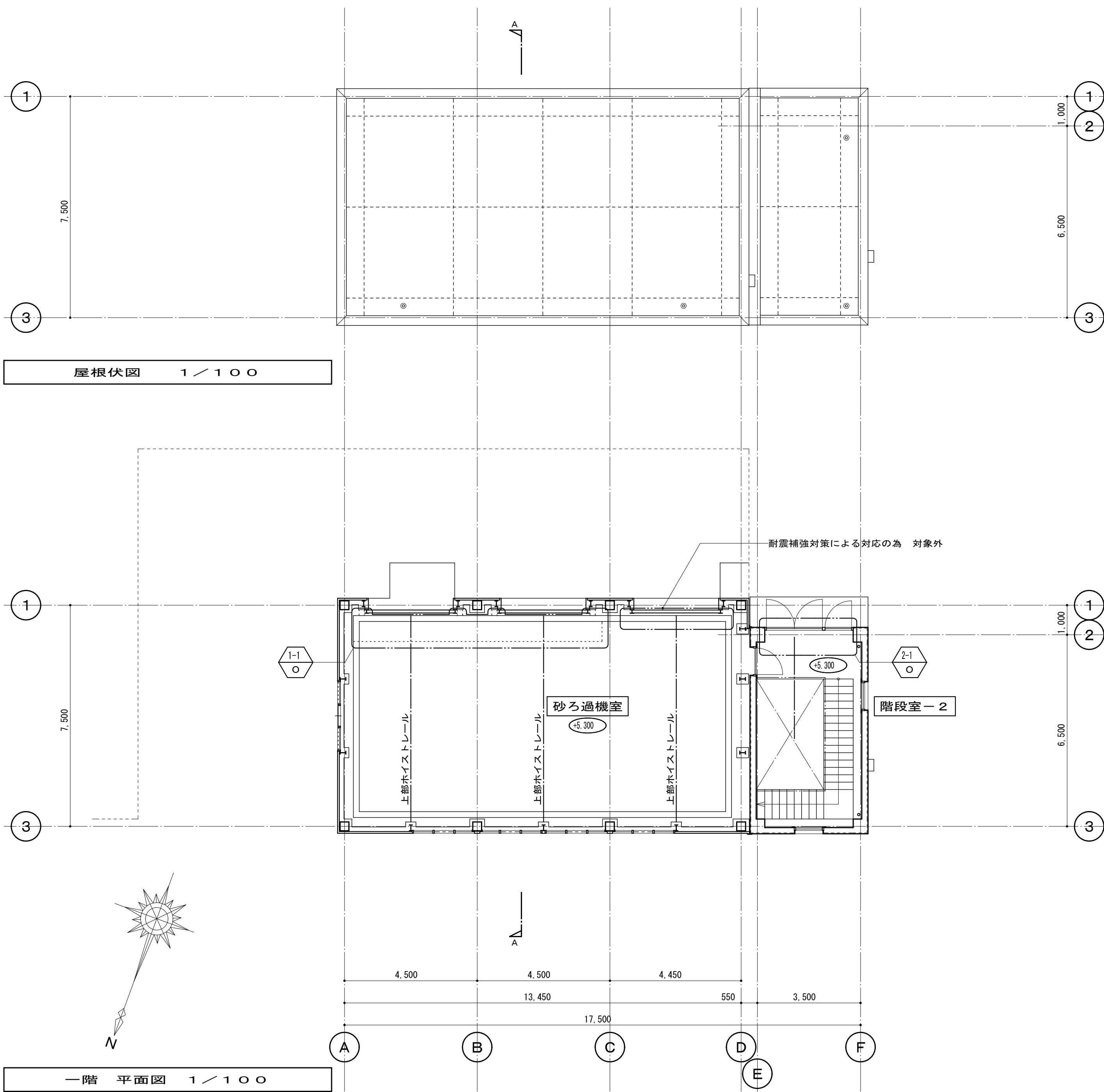
新設鉄筋コンクリート部の既設コンクリートとの接触面は目荒しを行う事。

工事番号	公セ補 第5機高5号	図面番号	S2-02
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	汚泥濃縮槽 階段室 構造図		
縮 尺	1/20		
設計年月日	令和 7 年 2 月 2 8 日		
新 潟 県 上 越 市			

仕 上 表		略 号		外部付属物及び詳細番号		内部付属物及び詳細番号									
共通事項															
1. 外部仕上表及び内、外部付属物の適用分類、詳細番号は、○印のついたものを適用する。	C	コンクリート	複層塗材（E）	合成樹脂エマルジョン系複層仕上塗材	・ 屋上点検口	・ 5－21－1	・ 図示	・ グレーチング	・ 図示	・ 流し台	・ 図示	・ カーテンボックス	・ 鋼 製	・ 3－31－1, 2	
2. 仕上表に記載の詳細番号のうち、(例)1－02－3は建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）を示す。	CB	コンクリートブロック	複層塗材（CE）	ポリマーセメント系複層仕上塗材	・ 屋上管類貫通部	・ 5－22－1	・ 図示	・ クーリングタワー基礎	・ 5－22－2	・ 5－22－3	・ 電気用ハンドホール蓋	・ 図 示	・ ブラインドボックス	・ アルミ製	・ 3－32－5, 6, 7
3. 特記以外の木、鉄部の塗装はSOPとする。但し、和室回りは除く。	W	木造	複層塗材（RE）	反応硬化形合成樹脂エマルジョン系複層仕上塗材	テレビアンテナ基礎			・ 文字板	・ 図 示		・ 流し上節水切り	・ 図示	・ 屋内掲示板	・ 既製品	
4. 付属物のうち、室名札、床点検口、掲示板、案内板、ピクトグラフ、階数表示板等は、平面図による。	GB-R	せっこうボード	複層塗材（Si）	けい酸質系複層仕上塗材	・ 屋上換気塔	・ 5－21－2	・ 図 示	・ 庁名板	・ 図 示		・ つり戸だな	・ 図示	・ 手すり	・ アルミ	
5. 付属物のうち、カーテンボックス、ブラインドボックス、ブラインド、天井点検口等は天井伏図による。	GB-NC（N）	不燃積層せっこうボード（化粧無し：下地張り用）	AE	アクリル樹脂エナメル塗り	・ 煙 突	・ 図 示		・ 郵便受	・ 図 示		・ 水切りだな	・ 図示	・ 階段手すり	・ アルミ	
6. PF板、木毛板等打込み箇所は、別図による。	GB-NC（NT）	不燃積層せっこうボード（化粧有り：トラバーチン模様）	DP	耐水性塗料塗り				・ 目 地	・ 図 示	・ 2－02－9, 10	・ 脱衣箱	・ 6－32－1		・ 7－12－6	
7. 内壁の見え掛りとなるPF板打込み部分は、GB厚12.5直張り（継目処理工法）とし、塗装は、その部屋の壁面と同様とする。	GB-S	シーリングせっこうボード	EP-G	つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り							・ 床点検口	・ 3－42－2			
8. 壁のボード張りは水平方向には原則として継手は設けない。	ケイカル板	けい酸カルシウム板（タイプ2）	EP	合成樹脂エマルジョンペイント塗り	・ と い	・ 5－31, 32, 33		・ たてどい	・ φ100（ステンレス製） （バンドレスタイプ）		・ 既製品	・ 6－22－1	・ 断熱材打込み	・ 7－01－1	・ 7－01－2
9. 天井仕上ボード張りのうち、GB-NC（NT）及びDR（下地GB共）は突付け張りとし、天井回り縁は、アルミ製、天井付き目地とする。	DR	ロックウール化粧吸音板（トラバーチン模様）	UC	ウレタン樹脂ワニス塗り	・ ルーフドレイン	・ 5－32－1					・ 便所へだて	・ 6－23－1, 2, 3, 4	・ 押 入	・ 6－46－1	
10. 直接地業工事に接する内部床のコンクリート下地には、防湿層としてポリエチレンフィルム厚0.15の敷込みを行う。ただし、床仕上げがビニル床タイル、ビニル床シート及び合成樹脂塗床、床用塗料の場合とする。	DR（凹凸）	ロックウール化粧吸音板（凹凸模様）	OS	オイルステイン塗り	・ 5－33－1						・ 肢体不自由者便所	・ 6－22－5, 6	・ ホイストレール	・ 図 示（溶融亜鉛メッキ）	
11. 打放し仕上げの出隅部分は、面取りを行う。	DR（軒天）	ロックウール化粧吸音板（軒天井用：トラバーチン模様）	SOP	合成樹脂調合ペイント塗り	・ トップライト	・ 図 示		・ 足洗い場	・ 図示		・ 便所手すり	・ 1－21－	・ クレンジャー	・ 図 示（溶融亜鉛メッキ）	
	DR（軒天凹凸）	ロックウール化粧吸音板（軒天井用：凹凸模様）	NAD	合成樹脂調合ペイント塗り	・ EX P, J金物	・ 既製品		・ マンホール蓋	・ 図示		・ トラフ	・ 8－21－2	・ クレンジャー	・ 図 示（溶融亜鉛メッキ）	
	P F板	押出法ポリスチレンフォーム保温材	LE	ラッカーエナメル塗り	・ 手すり	・ アルミ（図示）		・ 合成木材製蓋	・ 図示		・ かつふきマット	・ 8－21－2	・ 搬入口	・ 図 示	
	木毛板	木質系セメント板	WP	木材保護塗料塗り		・ ステンレス（図示）		・ タラップ	・ 図示		・ 角落し	・ 8－31－1	・ マンホール蓋	・ 図 示（土木工事）	
	T B	テラゾーブロック				・ スチール（図示）		・ 角落し	・ 図示		・ 足掛金物	・ 図示	・ 室名札	・ 8－43－1	
	外装薄塗材（E）	外装合成樹脂エマルジョン系薄付け仕上塗材				・ 図 示		・ 落し込み式取手	・ 図示		・ フック	・ 図示	・ ピクトグラフ	・ 8－44－1	
	C（B）	コンクリート打放し（B）				・ 8－21－1, 2, 3		・ ステンレス製蓋	・ 図示		・ グレーチング受枠	・ 図示	・ 庁舎案内板、各階案内板	・ 8－41－1	
	C（C）	コンクリート打放し（C）				・ 8－31－1, 2, 3		・ 丸環	・ 図示		・ 浴室まわり	・ 6－31－	・ 下足箱	・ 図示	
	M	モルタル						・ 室外機基礎	・ 5－22－2						
	軽量吹付	軽量骨材仕上塗材						・ 足掛金物	・ 図示						

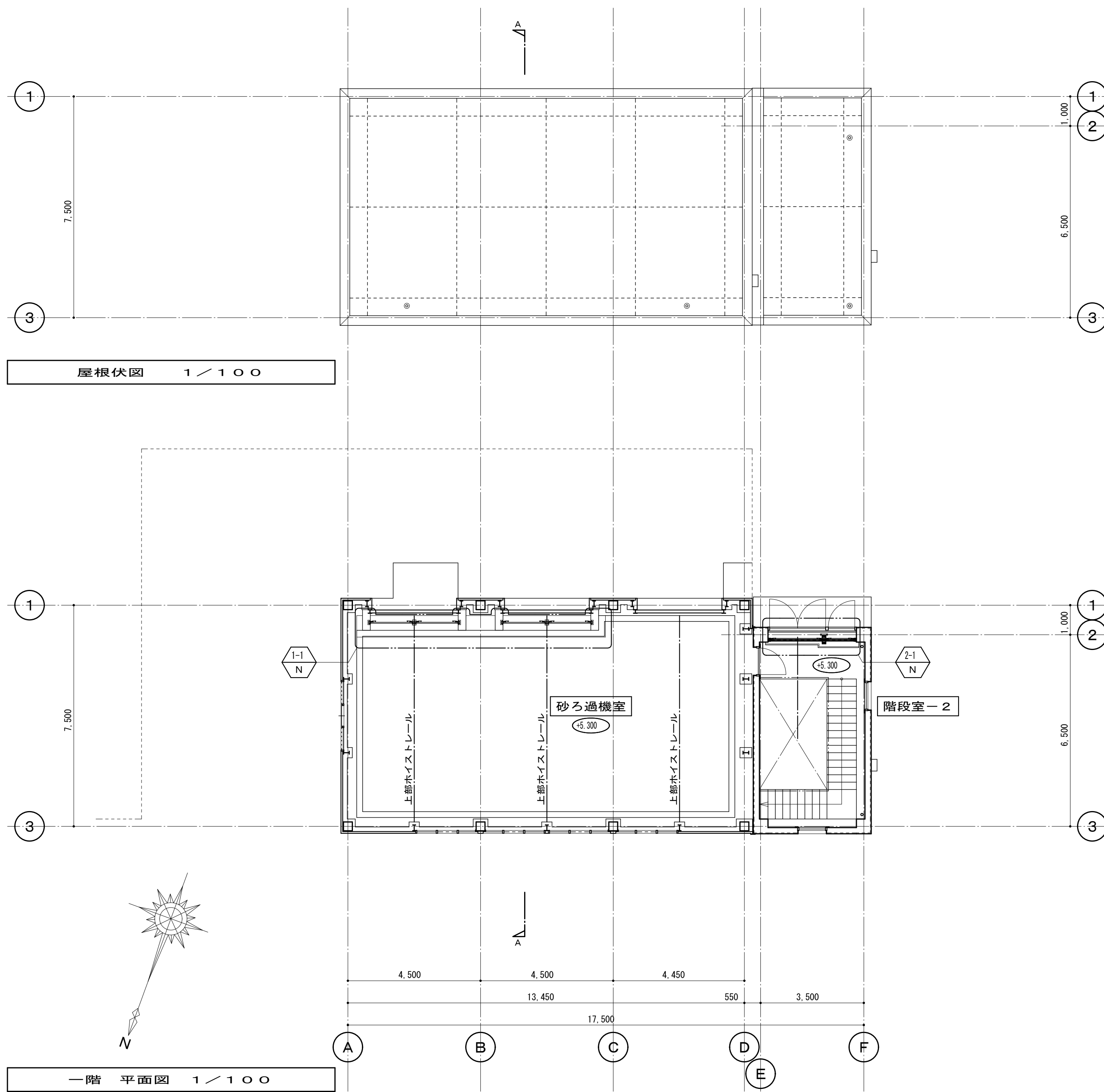
[illegible][illegible][illegible]

改 修 前



改修内容一覧表			
凡 例	改修箇所	改修内容	撤去概要
	1F 砂ろ過機室	防水板 設置	床無筋コンクリート 撤去 側溝 撤去
	1F 階段室-2	防水板 設置	床コンクリート新設部 目荒し

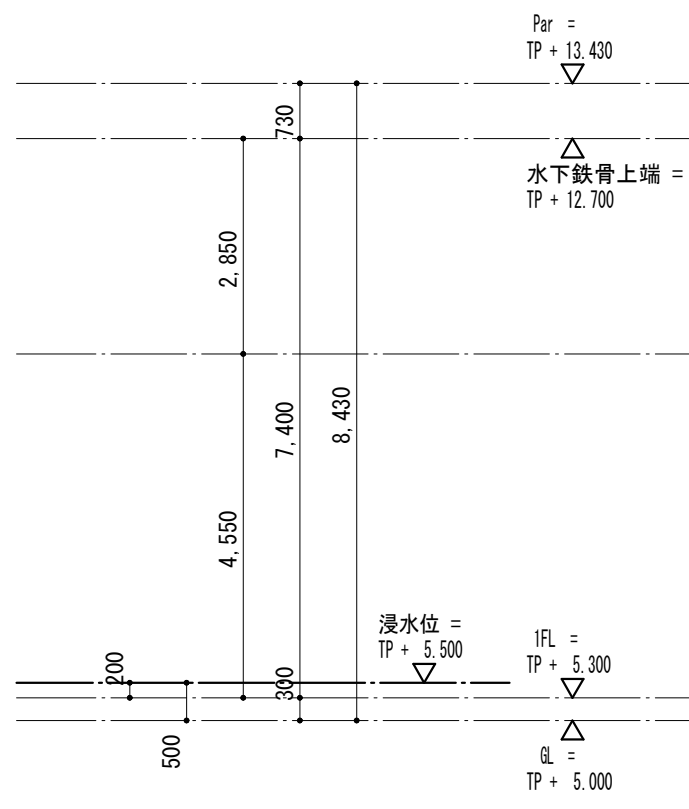
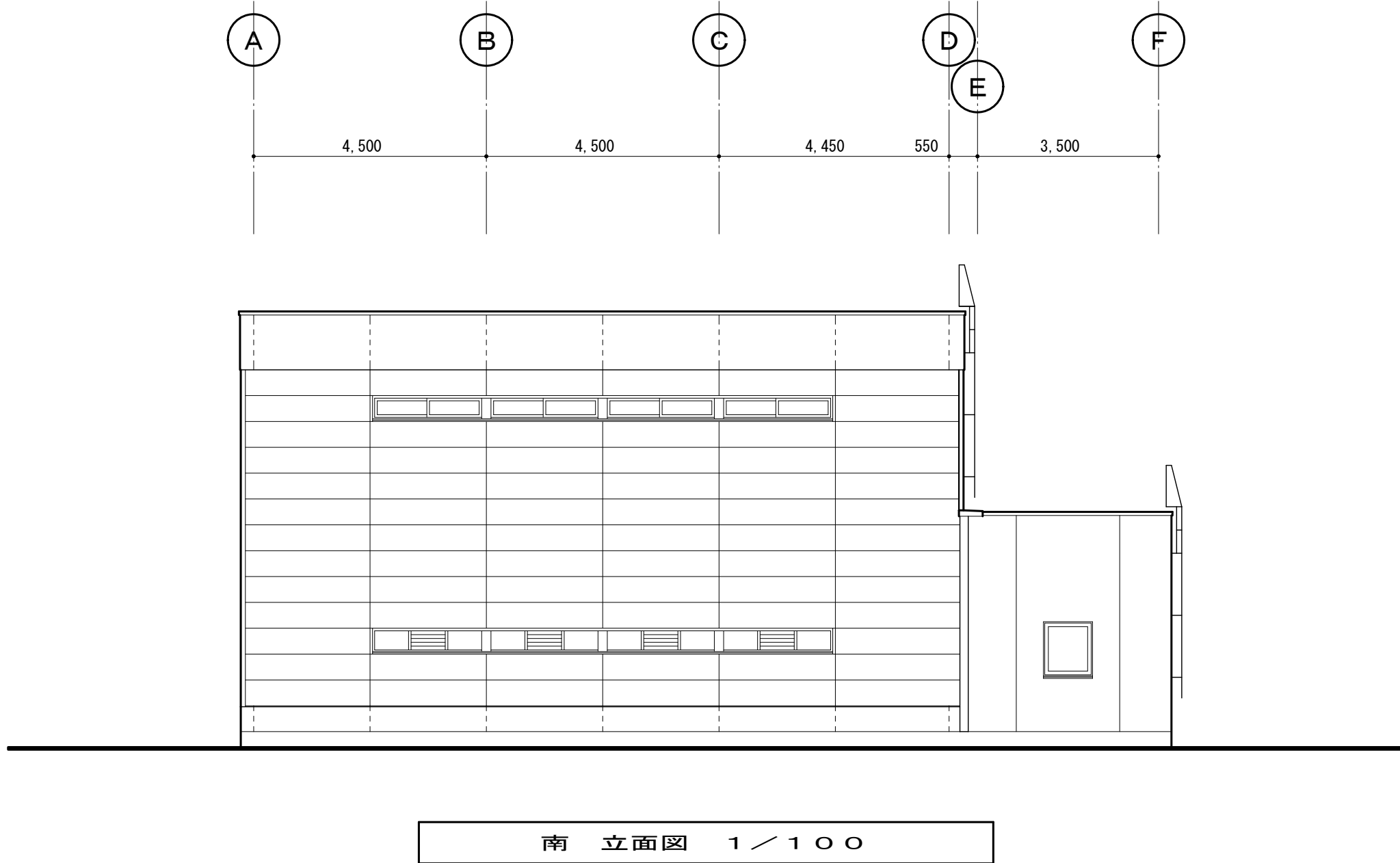
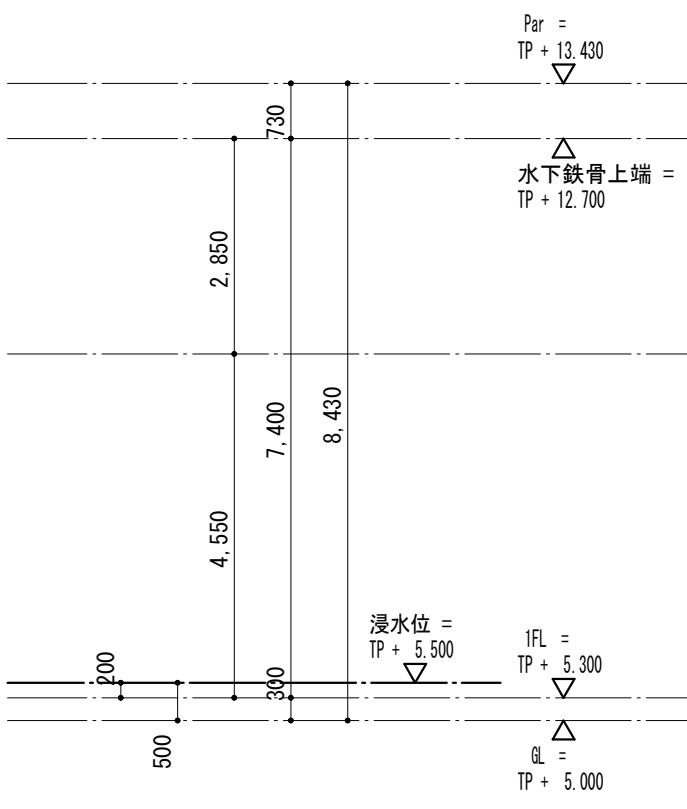
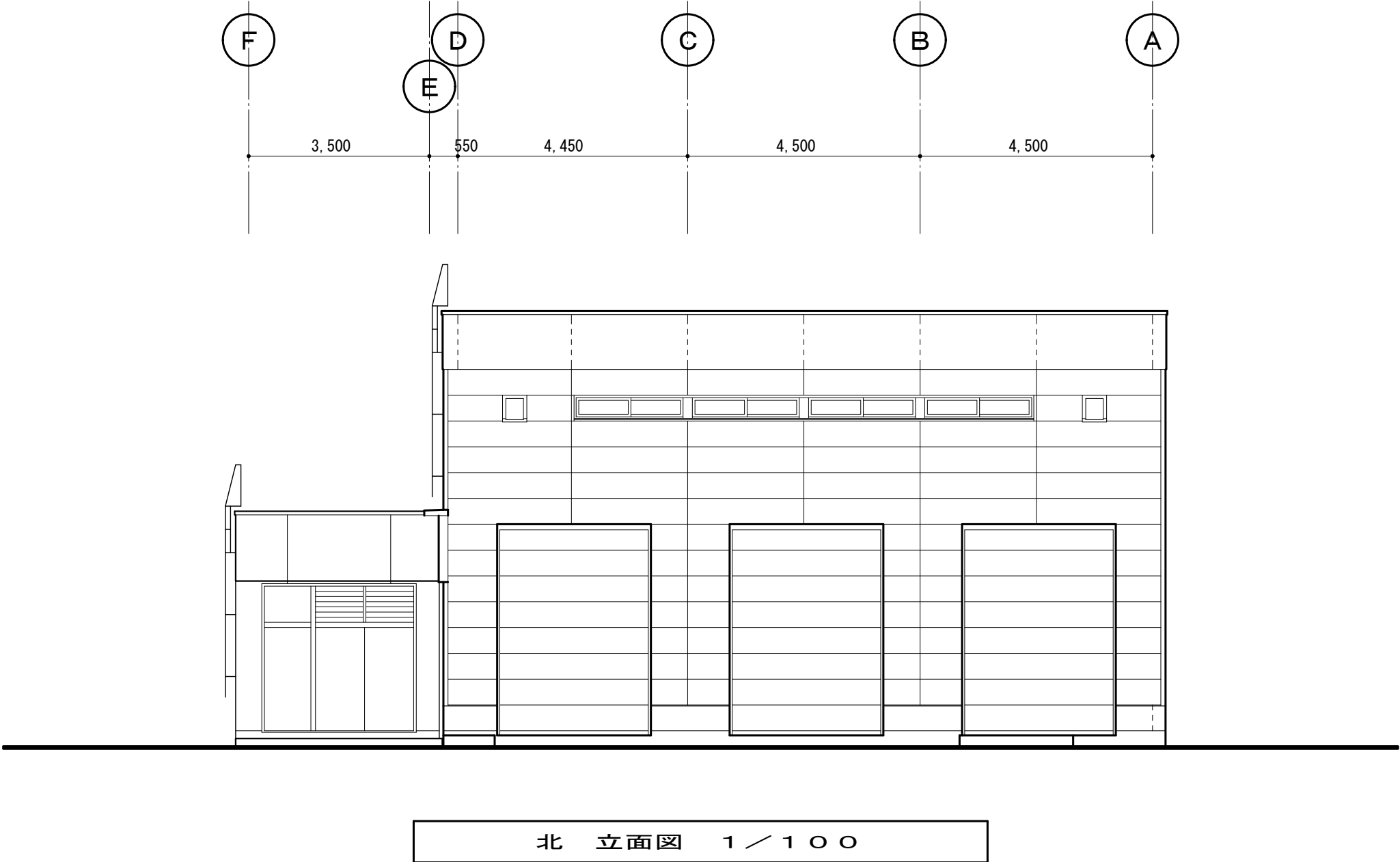
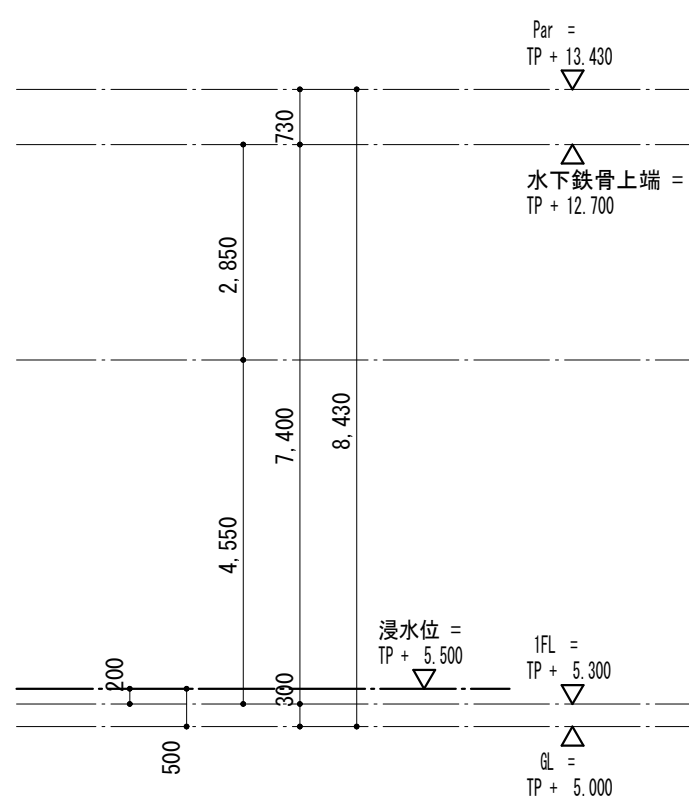
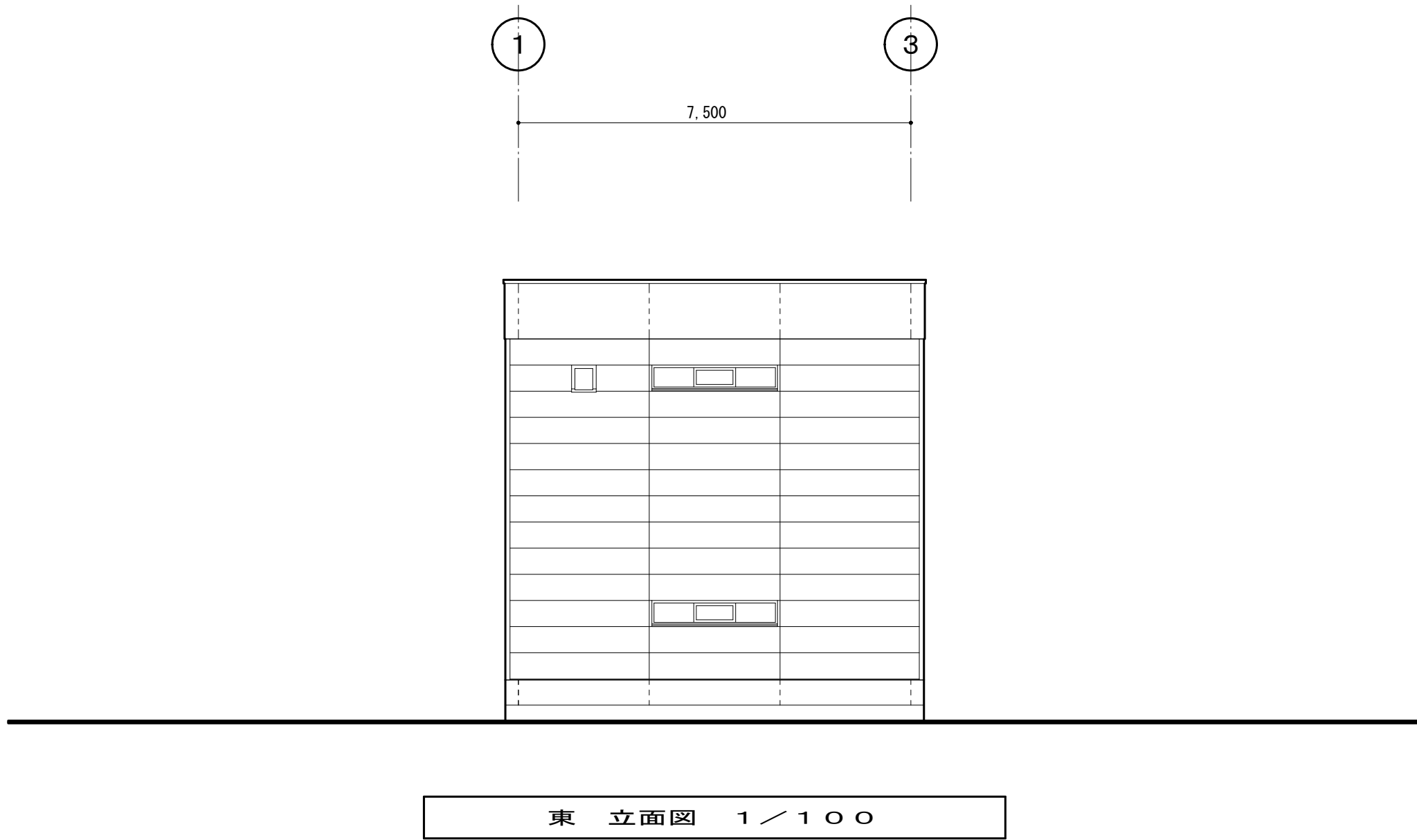
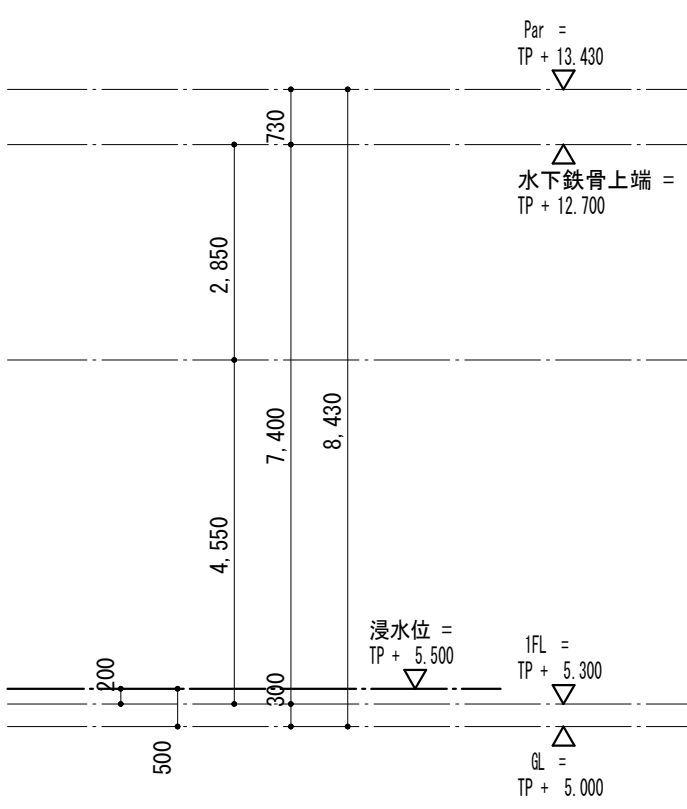
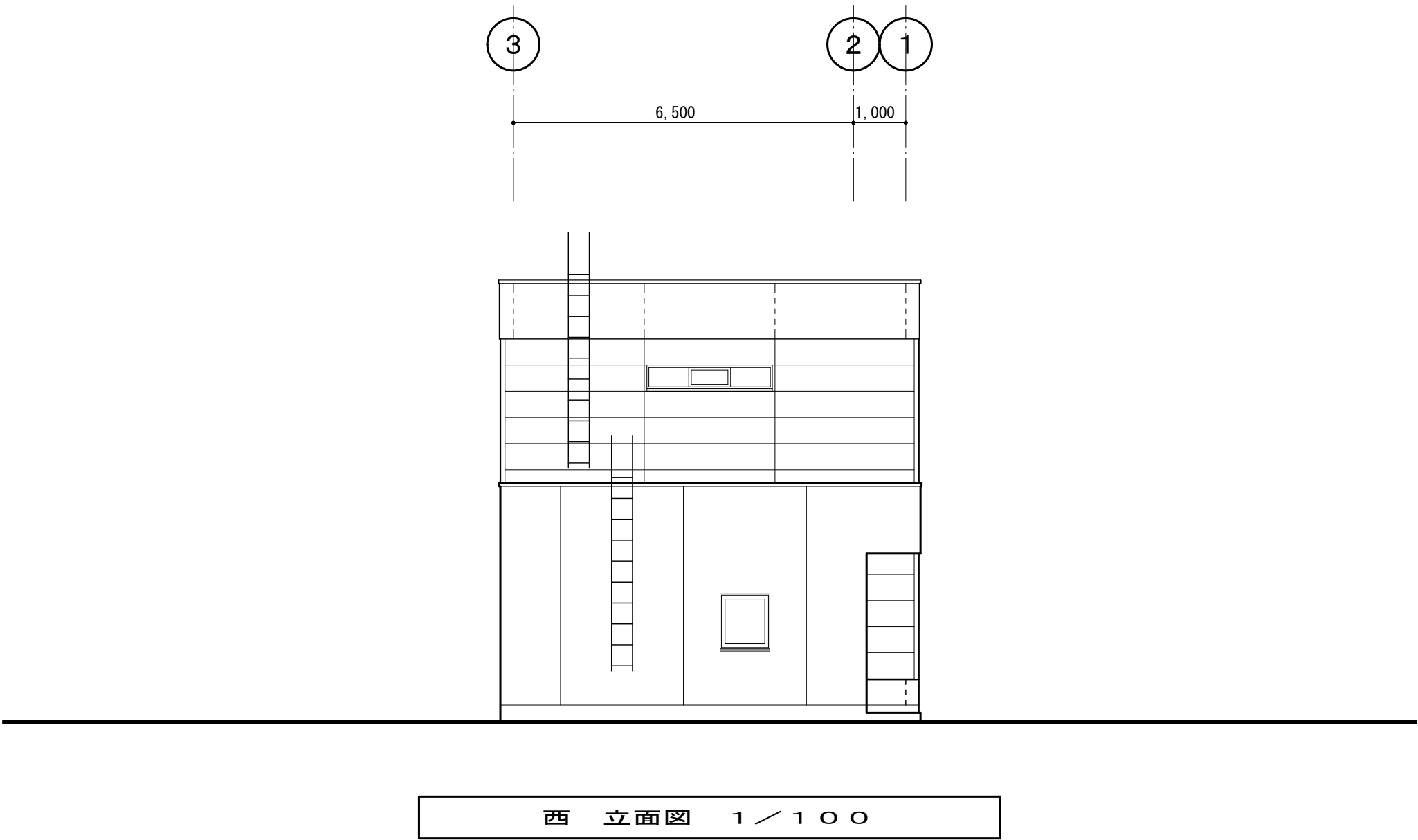
改 修 後



改修内容一覧表			
凡 例	改修箇所	改修内容	新設概要
	1F 砂ろ過機室	防水板 設置	防水板 新設 RC袖壁 新設 床無筋コンクリート 新設 側溝 新設
	1F 階段室-2	防水板 設置	防水板 新設 床コンクリート 新設

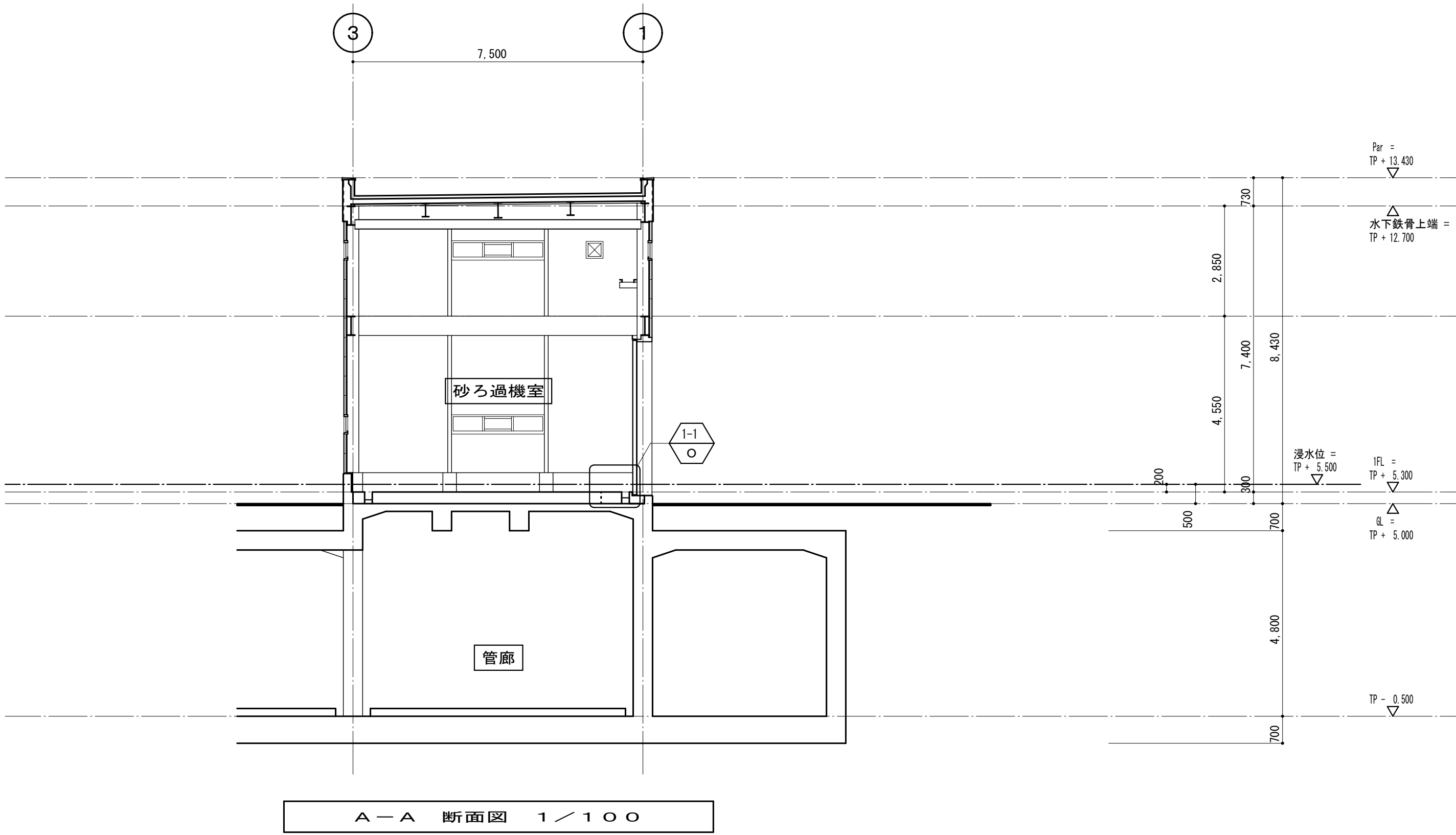
工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A3- 2
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	砂ろ過機 耐水化改修 平面図		
縮 尺	1/100		
設計年月日	令和 7 年 2 月 2 8 日		
新 潟 県 上 越 市			

改 修 前 (改修無し)



工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A3- 3
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	砂ろ過棟 耐水化改修 立面図		
縮 尺	1/100		
設計年月日	令和 7 年 2 月 2 8 日		
新 潟 県 上 越 市			

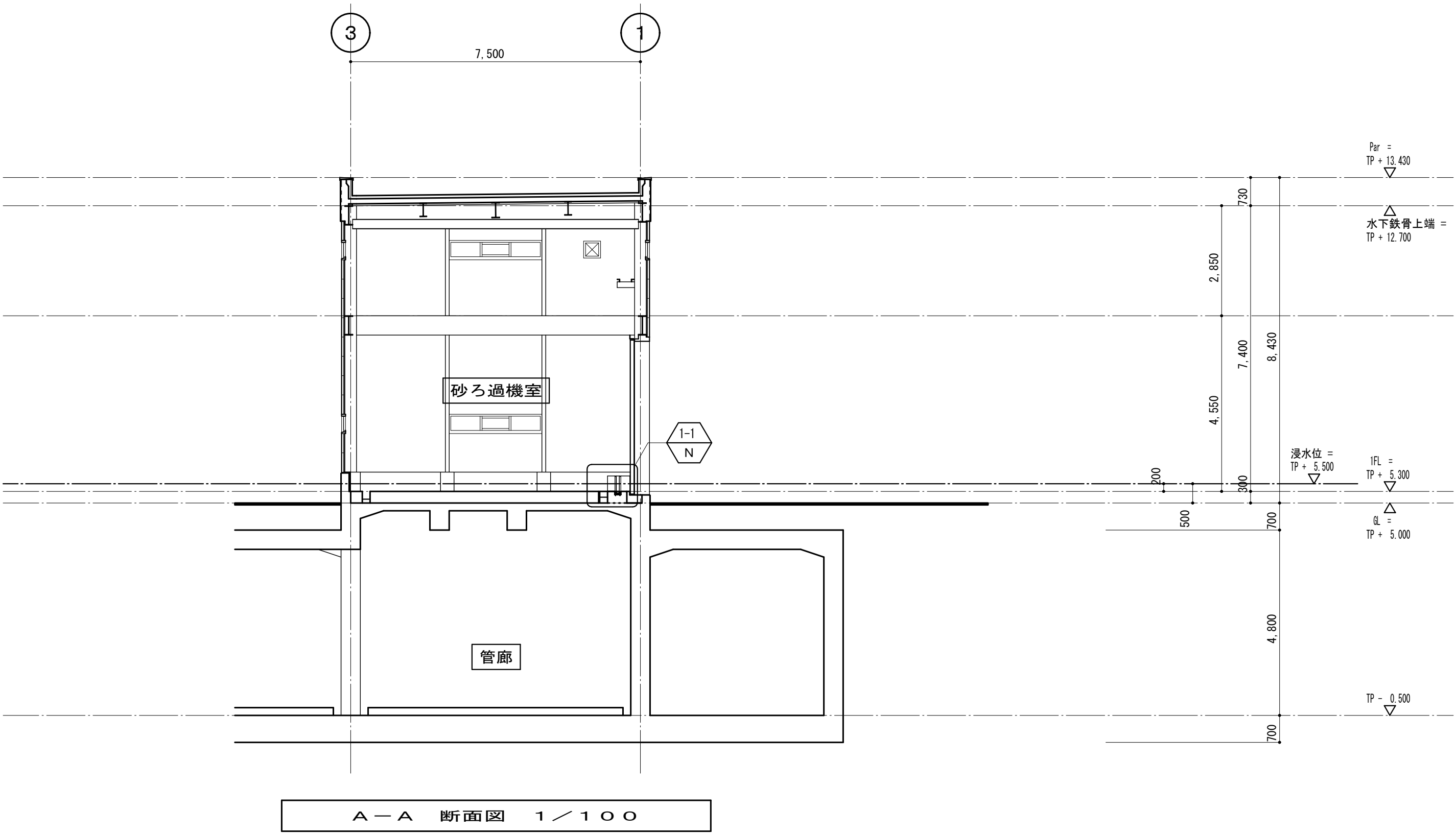
改 修 前



A-A 断面図 1 / 100

凡 例	改修箇所	改修内容	撤去概要
	1F 砂ろ過機室	防水板 設置	床無筋コンクリート 撤去 側溝 撤去

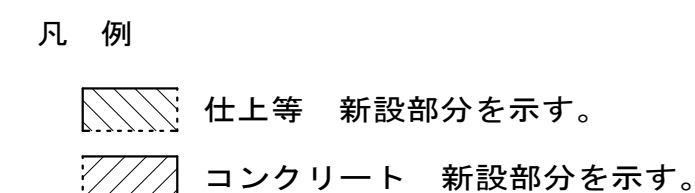
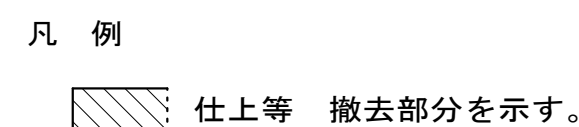
改 修 後



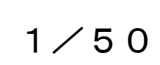
A-A 断面図 1 / 100

凡 例	改修箇所	改修内容	新設概要
	1F 砂ろ過機室	防水板 設置	防水板 新設 R C 袖壁 新設 床無筋コンクリート 新設 側溝 新設

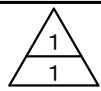
工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A3- 4
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	砂ろ過機 耐水化改修 断面図		
縮 尺	1 / 100		
設計年月日	令和 7 年 2 月 2 8 日		
新 潟 県 上 越 市			



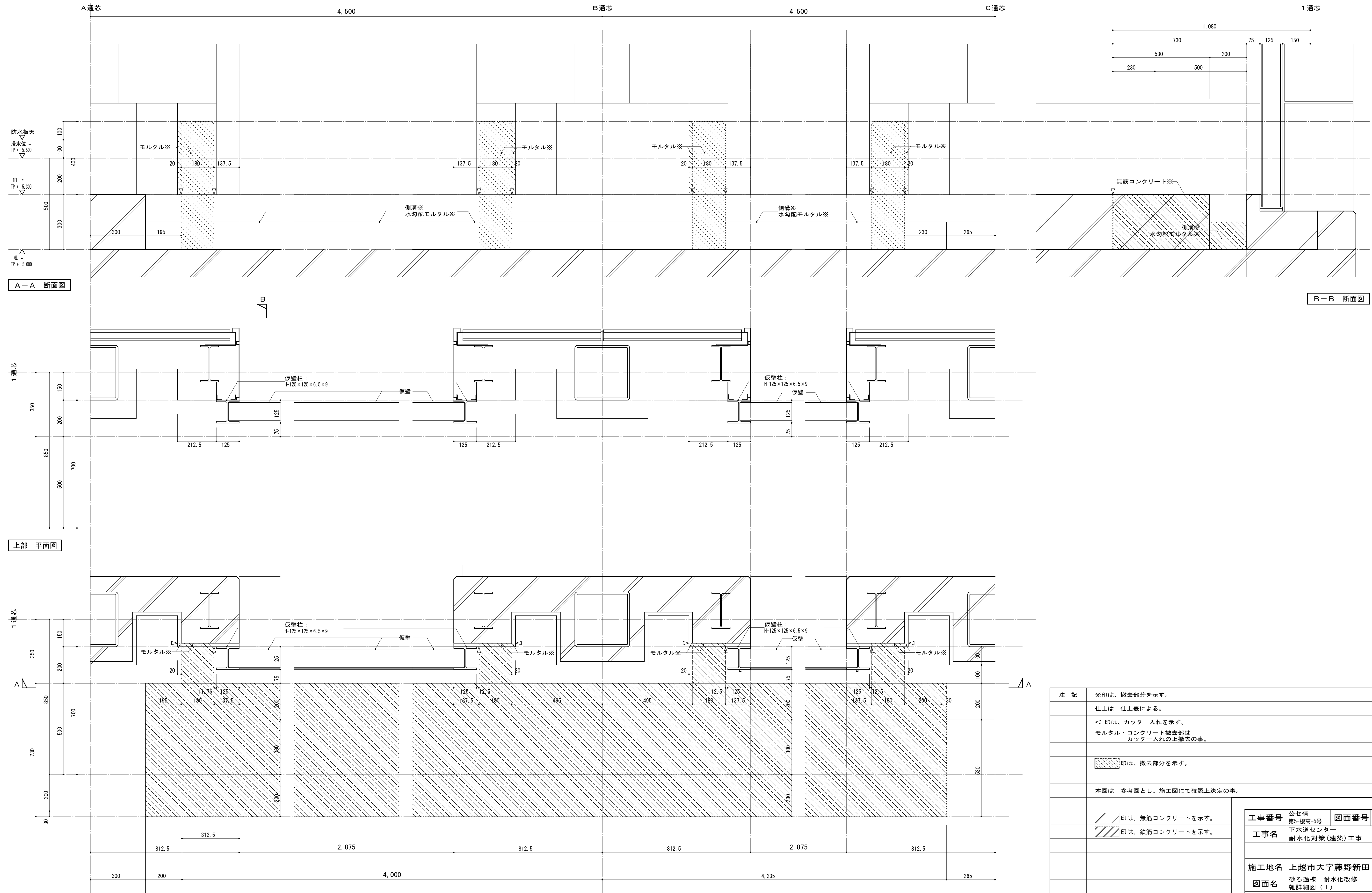
工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A3- 5
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築) 工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	砂よこ樋 耐水化改修 部分詳細図 ( 1 )		
縮 尺	1/50		
設計年月日	令和 7 年 2 月 2 8 日		
新 潟 県 上 越 市			







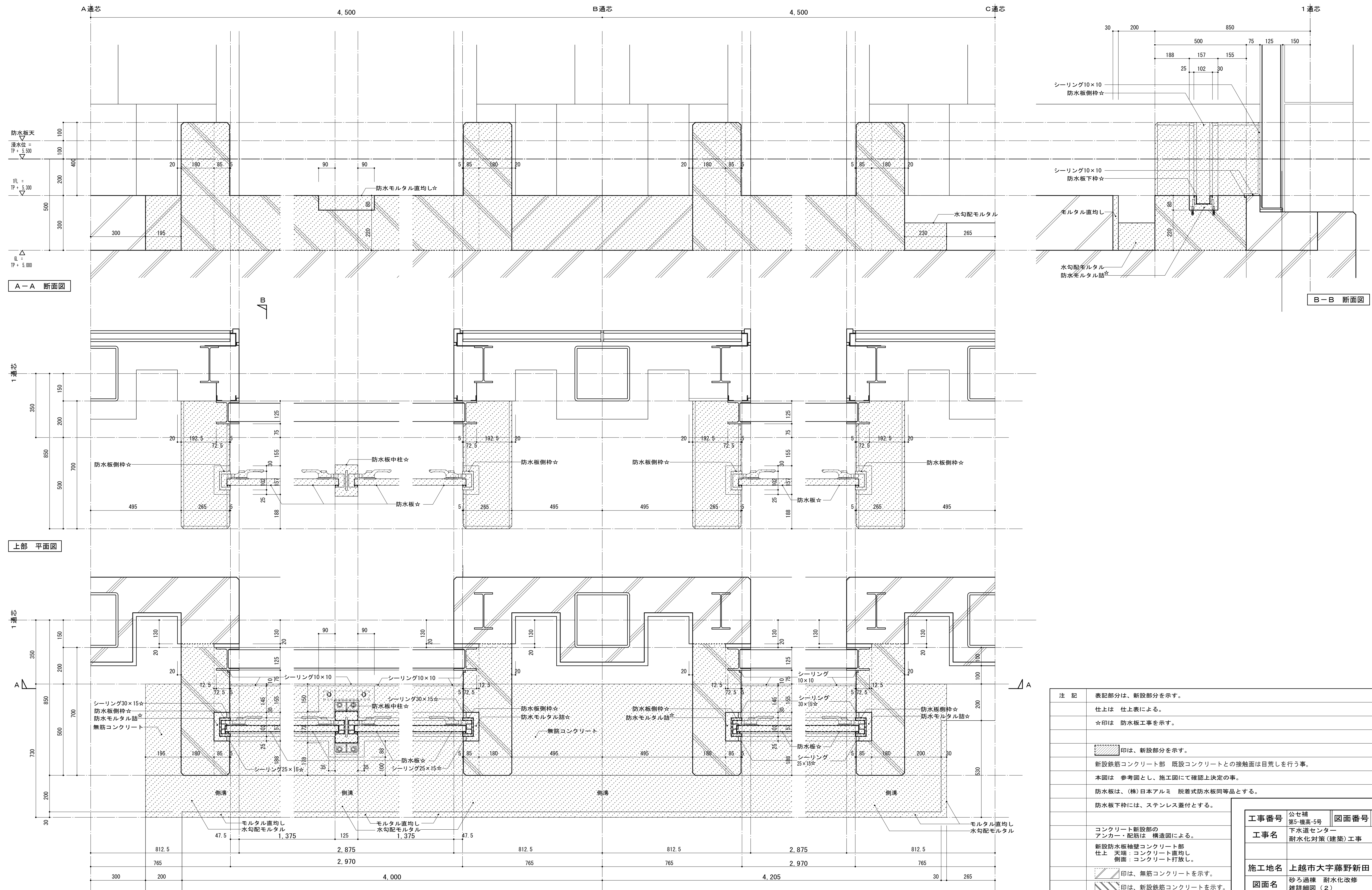
改修前



注 記	※印は、撤去部分を示す。
	仕上は 仕上表による。
	△印は、カッター入れを示す。
	モルタル・コンクリート撤去部は カッター入れの上撤去の事。
	印は、撤去部分を示す。
	本図は 参考図とし、施工図にて確認上決定の事。

工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A3- 7
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	砂ろ過機 耐水化改修 雑詳細図 ( 1 )		
縮 尺	1 / 10		
設計年月日	令和 7 年 2 月 2 8 日		

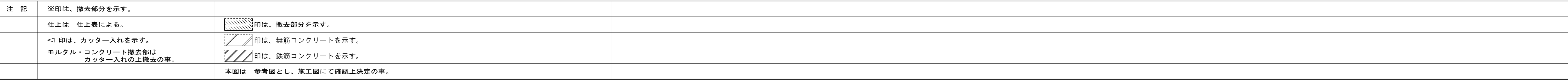
改修後



注 記	表記部分は、新設部分を示す。
	仕上は 仕上表による。
	☆印は 防水板工事を示す。
	印は、新設部分を示す。
	新設鉄筋コンクリート部 既設コンクリートとの接触面は目荒しを行う事。
	本図は 参考図とし、施工図にて確認上決定の事。
	防水板は、(株)日本アルミ 脱着式防水板同等品とする。
	防水板下枠には、ステンレス蓋付とする。

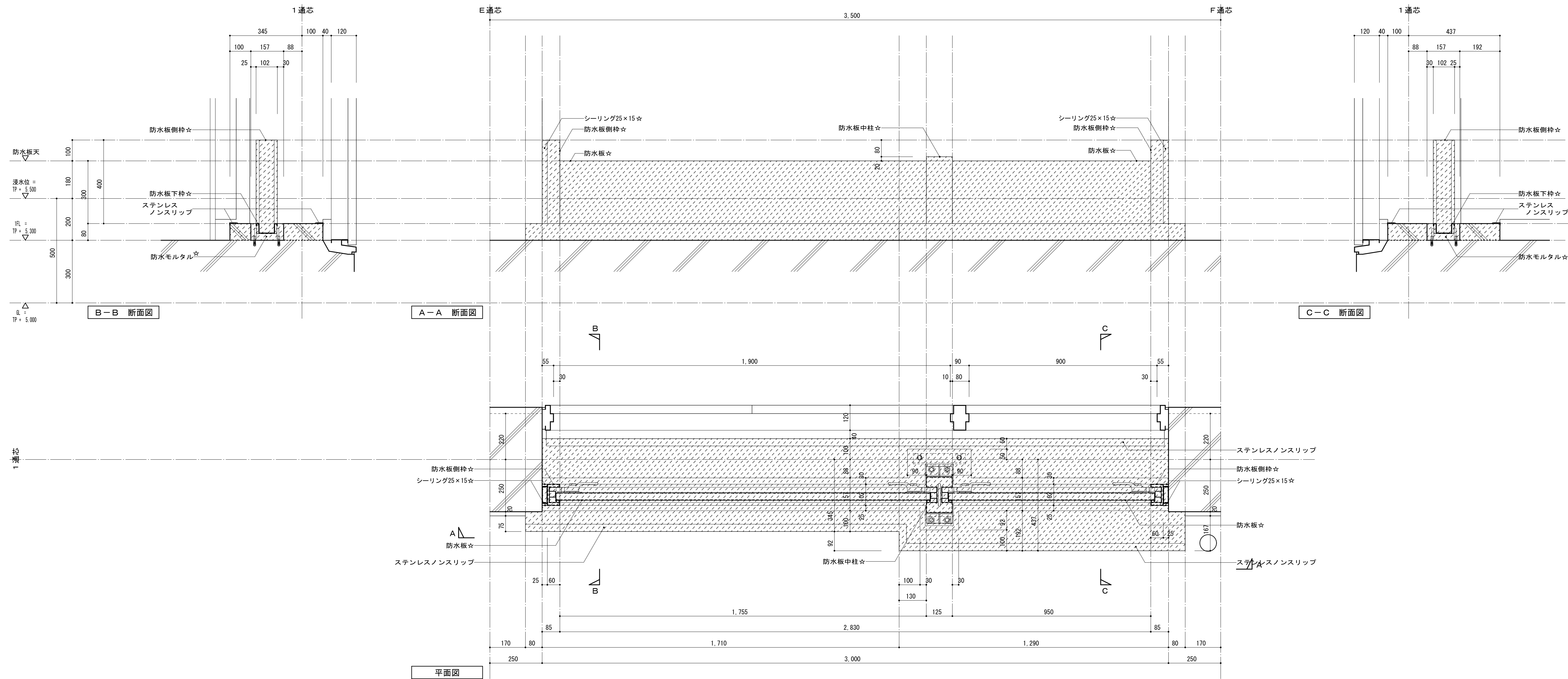
工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A3- 8
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	砂ろ過機 耐水化改修 雑詳細図 (2)		
縮 尺	1 / 10		
設計年月日	令和 7 年 2 月 2 8 日		

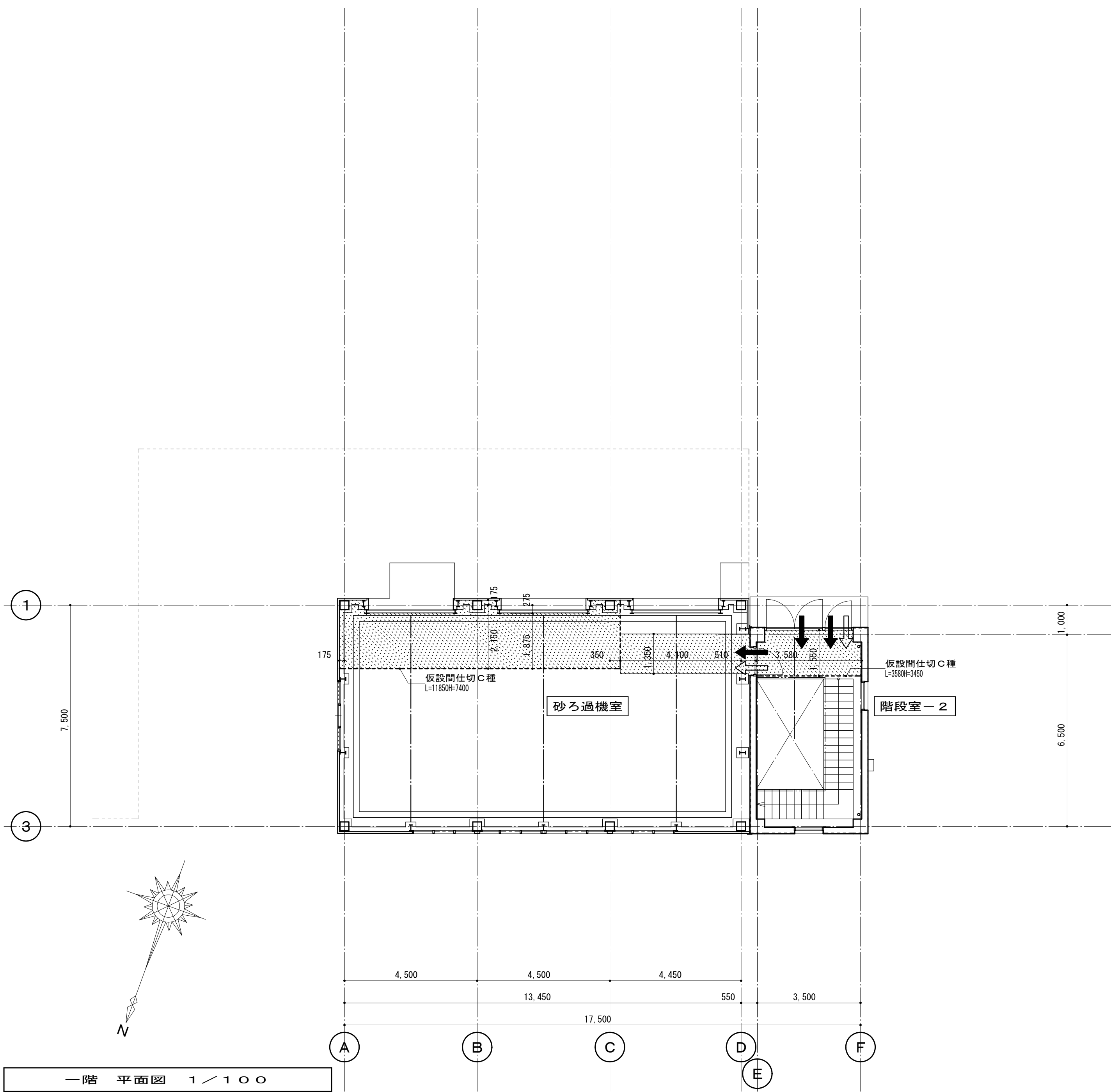
改修前



工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A3- 9
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	砂ろ過機 耐水化改修 雑詳細図 ( 3 )		
縮 尺	1/10		
設計年月日	令和 7 年 2 月 2 8 日		
新 潟 県 上 越 市			

改修後





凡 例

- 仮設間仕切C種 (単管足場+壁養生シート)
- 床養生ブルーシート敷  
内部養生シートは 防災Ⅱ類とする。
- 工事用動線  
管理用動線

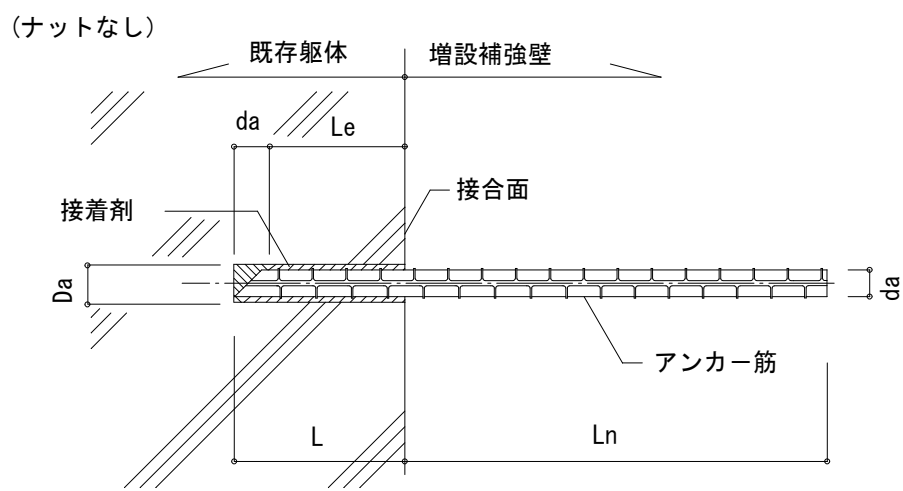
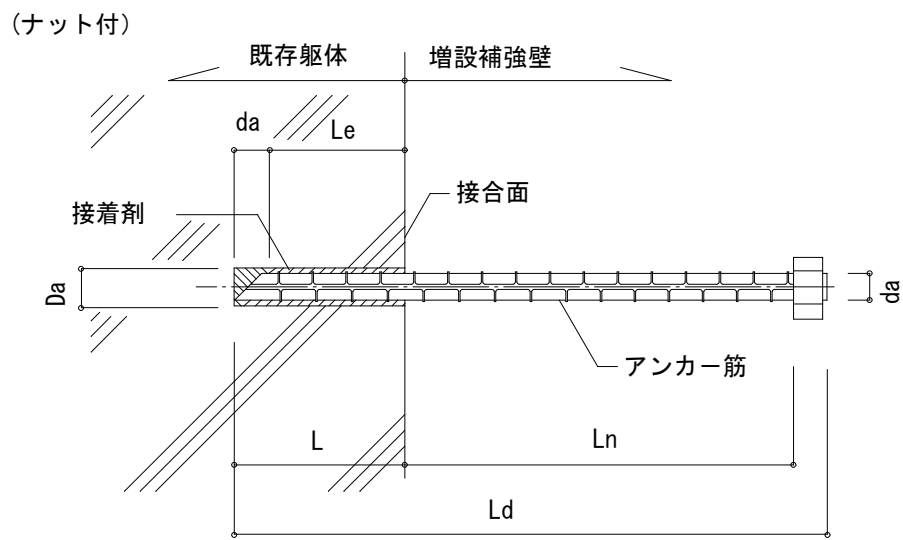
注 記

- ・仮設計画については、参考とする。
- ・仮設間仕切り・足場等は、現場にて監督員と調整のこと。
- ・足場の存置日数は、30日とする。

工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A3-11
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	砂ろ過棟 耐水化改修 仮設図		
縮 尺	1/100		
設計年月日	令和 7 年 2 月 2 8 日		
新 潟 県 上 越 市			

あと施工アンカー

(1) 接着系アンカー



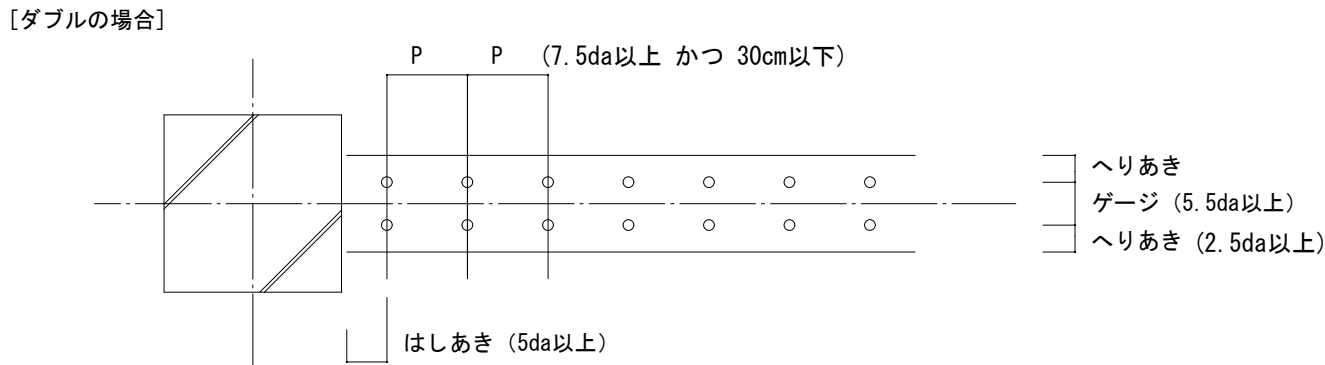
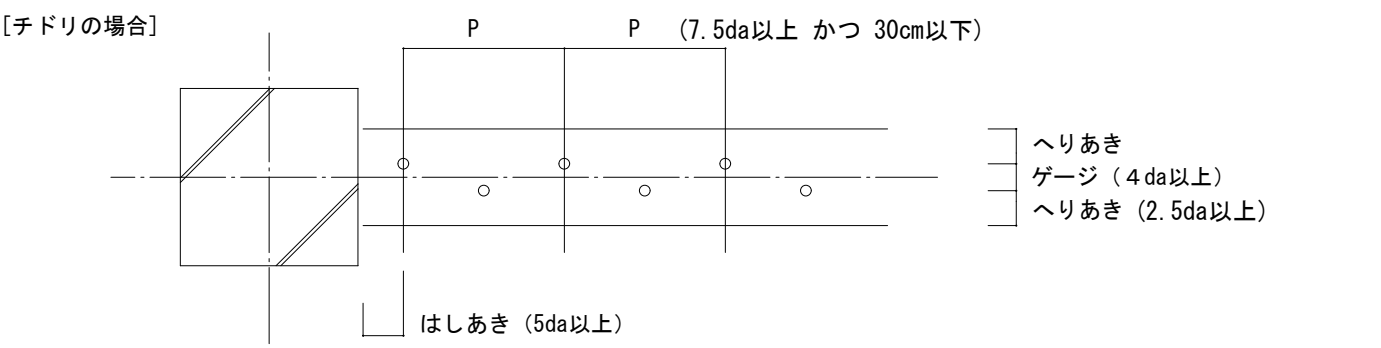
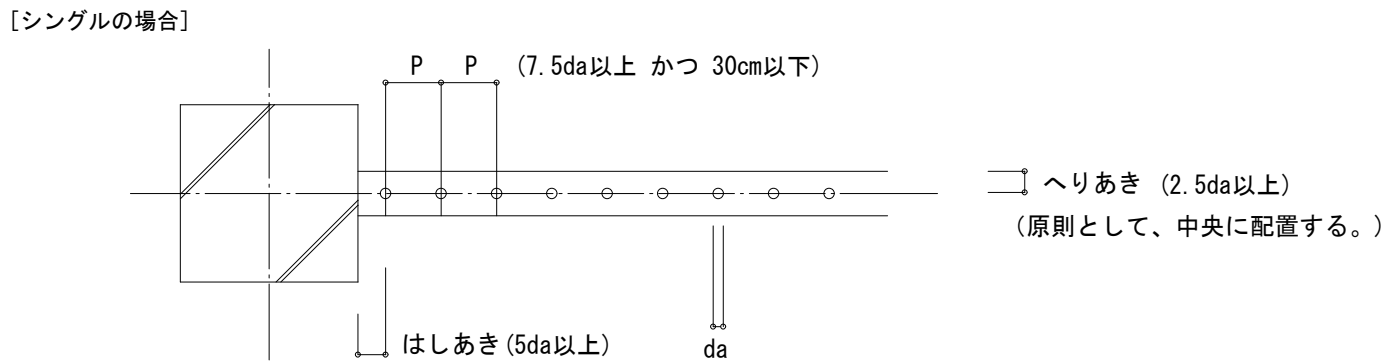
L : コンクリートの穿孔深さ、または接着系アンカーの埋め込み長さ  
Le : アンカーの有効埋め込み長さ  
Ld : アンカー筋の全長  
Ln : 有効定着長さ  
Da : 既存コンクリート躯体への穿孔径  
da : アンカー軸部の直径、アンカー筋の呼び名

アンカー関係共通事項		
接着系アンカーの有効	埋め込み長さ	一般部 : $L_e = 7 d_a$ 開口補強筋 : $L_e = 10 d_a$
	定着長さ	一般部 : $L_n = 20 d_a$ 開口補強筋 : $L_n = L_1 + 5 d_a$ (=補強筋との継手長さ+ナット山)
アンカー筋形状	ナット付き異形棒鋼(開口補強筋用はナットなし)とし、ナットからねじ山が2山以上でること。 また、先端形状は45°カットとする。	

施工確認試験荷重 (確認強度)		
アンカー筋呼び名 (da)	アンカーの有効埋込長さ (Le)	荷 重 (kN) 2/3をかけた値
D [ 13 ]	[ 7 ] da	[ 20.9 ]
D [ 13 ]	[ 10 ] da	[ 24.9 ]
D [ 16 ]	[ 7 ] da	[ 31.6 ]
D [ 16 ]	[ 10 ] da	[ 39.0 ]
D [ 19 ]	[ 7 ] da	[ 44.6 ]
D [ 19 ]	[ 10 ] da	[ 65.9 ]
D [ 22 ]	[ 7 ] da	[ 59.7 ]
D [ 25 ]	[ 10 ] da	[ 116.5 ]

確認強度は、計算で得られた、アンカーの鋼材による引張荷重又はコンクリート破壊による引張荷重(埋込みピッチ及びへりあきの影響を受ける場合は、低減した荷重)の小さい方の2/3程度の荷重。

(2) あと施工アンカーの位置と間隔



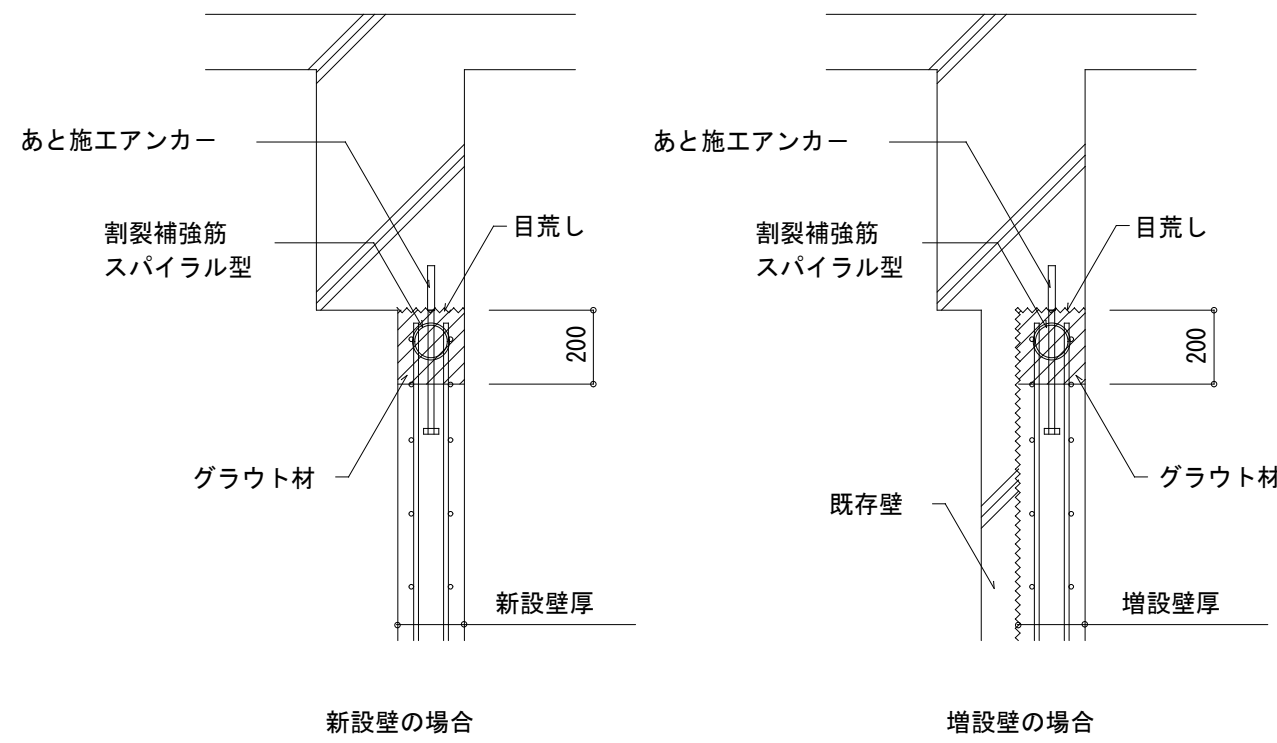
割裂補強筋配筋要領

- 割裂補強筋は、改修壁の柱・梁に接する面全てに配置する。
- 割裂補強筋は、スパイラル型とし、ピッチ、スパイラル径は下記による。
- 継手は、2巻以上の重ねとする。

壁 厚	スパイラル径	割裂補強筋	備 考
180	100	Φ6@50	
200	120	Φ6@50	
220	140	Φ6@50	
300	220	Φ6@50	

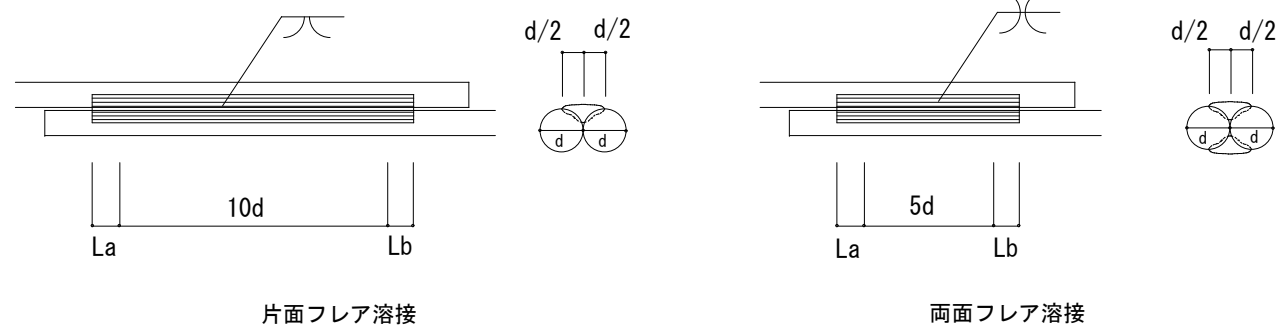
新設・増設壁上部グラウト要領

- 特記なき新設・増設壁上部は、グラウトを行う。

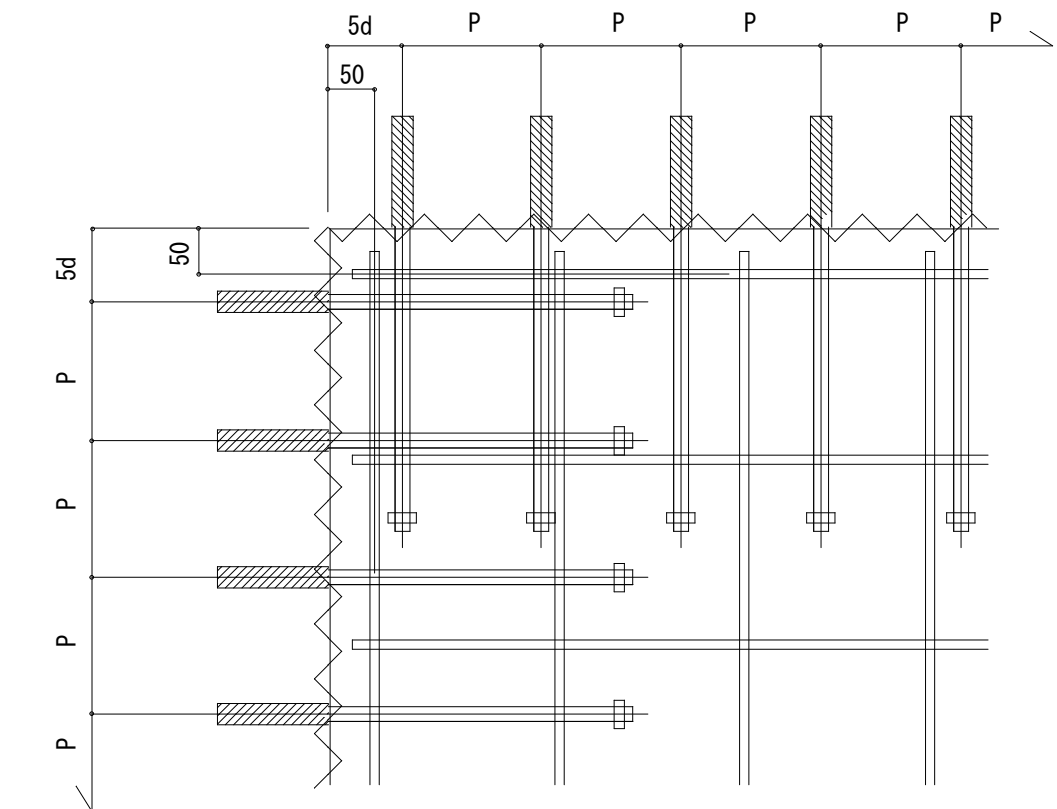


鉄筋フレア溶接要領

- 特記なき鉄筋のフレア溶接は、下図の片面または両面とする。
- 鉄筋のフレア溶接の溶接長さは、ビードの始点 (La) 及び、クレータ (Lb) を除いた部分の長さとする。但し、La 及び Lbは 2d以上とする。



アンカー筋ピッチ標準



既存壁等撤去要領図

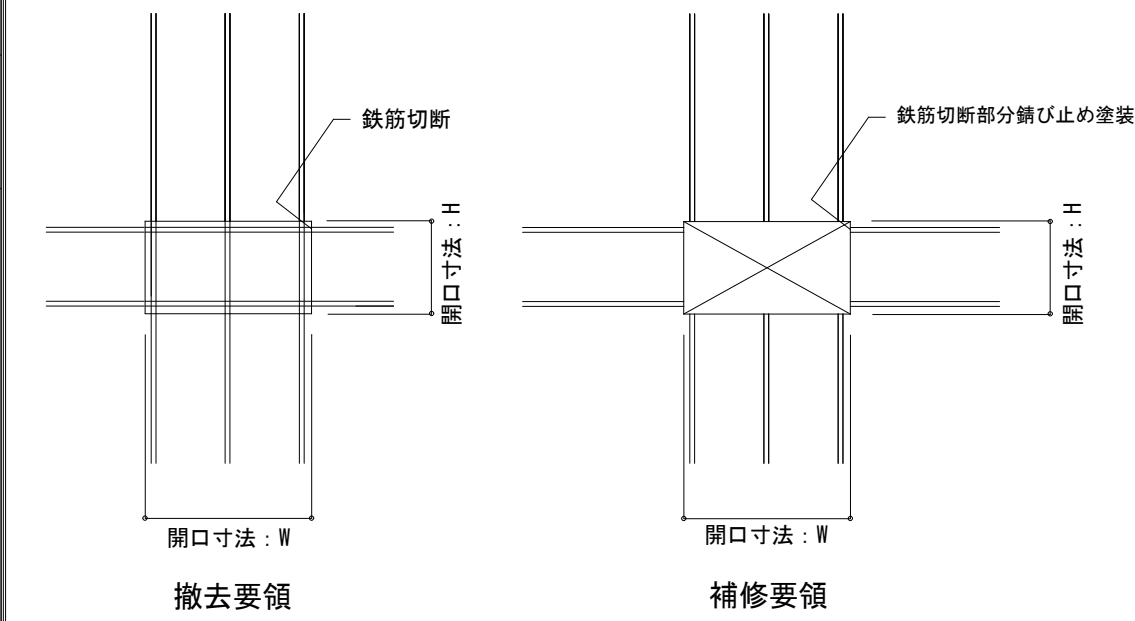
注記) 特記なき壁等の撤去は下図による。  
注記) ≧印は、コンクリートカッター位置を示し、カッター深さ30とする。  
注記) 鉄筋切断部には、錆止め塗装を行う。  
注記) 鉄筋はつり出しは、特記による。

撤去壁-梁 取合部 (撤去のみの場合)	撤去壁-スラブ 取合部	撤去壁-梁 取合部 (壁を新設する場合)
撤去壁-柱 取合部 (撤去のみの場合)	撤去壁-直交壁 取合部	撤去壁-柱 取合部 (壁を新設する場合)
撤去庇-梁 取合部		

新設壁開口配筋要領図 (※註：意匠図による)

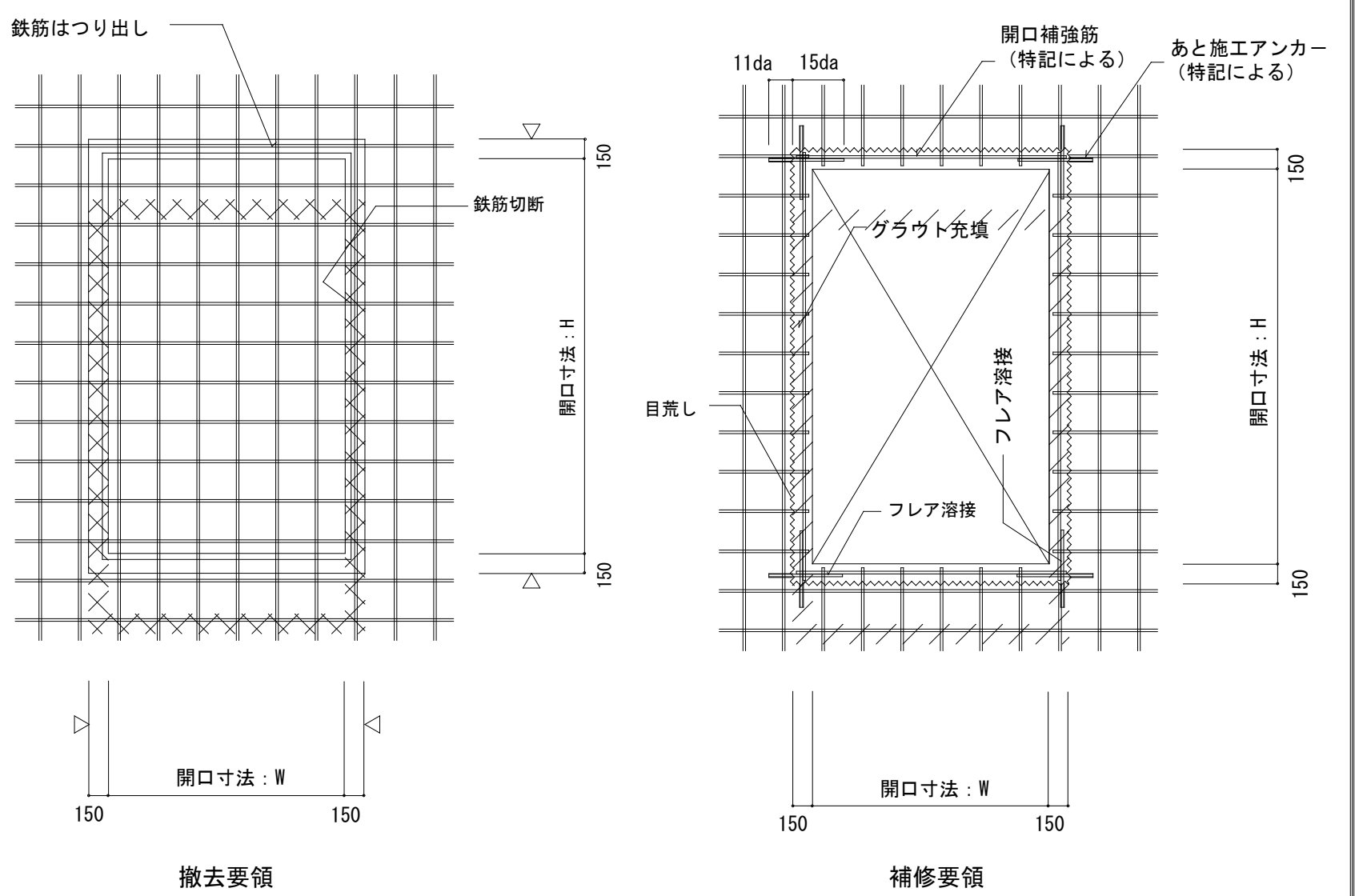
- 床・壁にコア抜きにより先導孔を開ける。
- 各開口寸法に合わせ、コンクリートカッター及び、はつり出しにより開口部を開ける。
- 小開口部は切断面の補修 (錆び止め塗装) を施す。  
大開口部はあと施工アンカーにより、開口補強筋を設ける。  
開口補強筋を取り付けた後、内型枠に合わせグラウト材を充填する。

○小開口部 ・適用は特記による。



- 参考図書  
「2017年改訂版 既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計指針 同解説」  
日本建築防災協会／国土交通大臣指定耐震改修支援センター  
※第3章 補強部材・部位の設計  
※第4章 補強工事の施工

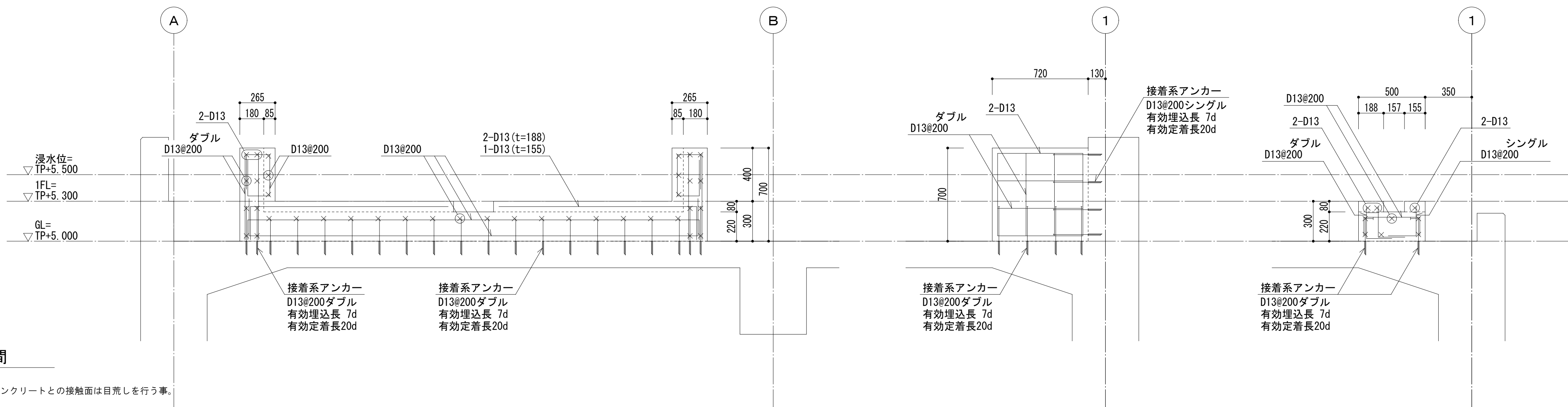
○大開口部 ・適用は特記による。



注記) ≧印は、コンクリートカッター位置を示し、カッター深さ30

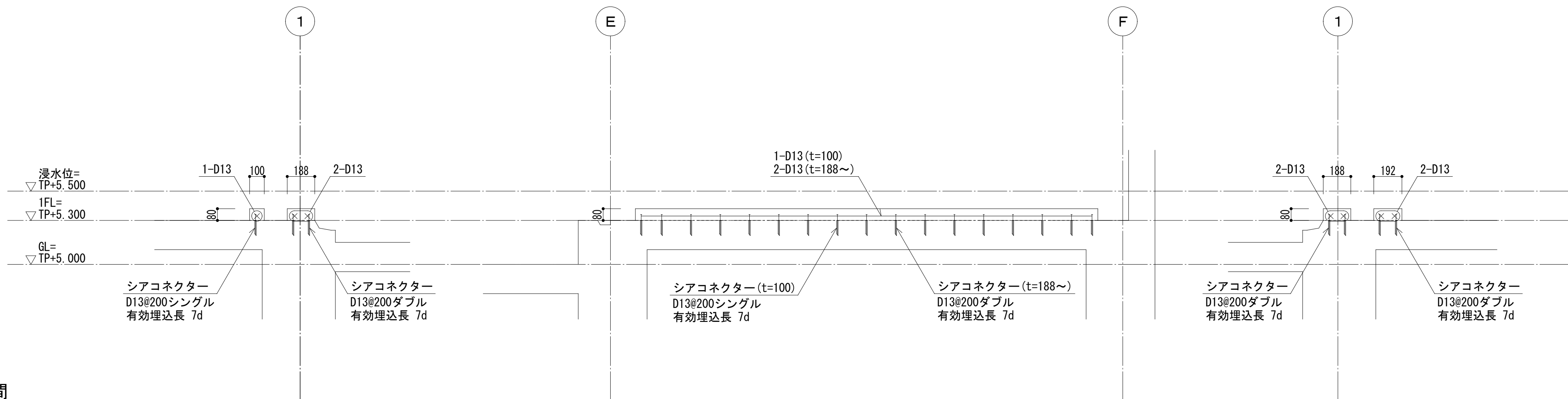
工事番号	公セ補 第5機高5号	図面番号	S3-01
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	砂ろ過機 改修標準詳細図		
縮尺	—		
設計年月日	令和 7 年 2 月 28 日		
新潟県上越市			





1 通り A-C間

新設鉄筋コンクリート部の既設コンクリートとの接触面は目荒しを行う事。



1 通り E-F間

新設鉄筋コンクリート部の既設コンクリートとの接触面は目荒しを行う事。

工事番号	公セ補 第5機高5号	図面番号	S3-02
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	砂ろ過棟 構造図		
縮 尺	1/20		
設計年月日	令和 7 年 2 月 28 日		
新潟県上越市			

仕 上 表		略 号		外部付属物及び詳細番号		内部付属物及び詳細番号									
共通事項															
1. 外部仕上表及び内、外部付属物の適用分類、詳細番号は、○印のついたものを適用する。	C	コンクリート	複層塗材（E）	合成樹脂エマルジョン系複層仕上塗材	・ 屋上点検口	・ 5－21－1	・ 図示	・ グレーチング	・ 図示	・ 流し台	・ 図示	・ カーテンボックス	・ 鋼 製	・ 3－31－1、2	
2. 仕上表に記載の詳細番号のうち、(例)10－2－3は建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）を示す。	CB	コンクリートブロック	複層塗材（CE）	ポリマーセメント系複層仕上塗材	・ 屋上管類貫通部	・ 5－22－1	・ 図示	・ クーリングタワー基礎	・ 5－22－2	・ 5－22－3	・ フード	・ 図示	・ ブラインドボックス	・ アルミ製	・ 3－32－5、6、7
3. 特記以外の木、鉄部の塗装はSOPとする。但し、和室廻りは除く。	W	木造	複層塗材（RE）	反応硬化形成樹脂エマルジョン系複層仕上塗材	・ テレビアンテナ基礎			・ 電気用ハンドホール蓋	・ 図 示		・ コンロ台	・ 図示		・ アルミ製	・ 図示
4. 付属物のうち、室名札、床点検口、掲示板、案内板、ビクトグラフ、階数表示板等は、平面図による。	LGS	軽量鉄骨	複層塗材（S i）	けい酸質系複層仕上塗材	・ 屋上換気塔	・ 5－21－2	・ 図 示	・ 文字板	・ 図 示		・ 流し上部水切り	・ 図示	・ 屋内掲示板	・ 既製品	
5. 付属物のうち、カーテンボックス、ブラインドボックス、ブラインド、天井点検口等は天井伏図による。	GB-R	せっこうボード	CL	クリヤラッカー塗り	・ 煙 突	・ 図 示		・ 庁名板	・ 図 示		・ つり戸だな	・ 図示	・ 手すり	・ アルミ	
6. P F板、木毛板等打込み箇所は、別図による。	GB-N C（N）	不燃積層せっこうボード（化粧無し：下地張り用）	A E	アクリル樹脂エナメル塗り				・ 郵便受	・ 図 示		・ 水切りだな	・ 図示	・ 階段手すり	・ アルミ	
7. 内壁の見え掛りとなるP F板打込み部分は、GB厚12.5直張り（継目処理工法）とし、塗装は、その部屋の壁面と同様とする。	GB-N C（N T）	不燃積層せっこうボード（化粧有り：トラバーチン模様）	D P	耐候性塗料塗り				・ 目 地	・ 図 示	・ 2－02－9、10	・ 脱衣箱	・ 6－32－1		・ 7－12－6	
8. 壁のボード張りは水平方向には原則として継手は設けない。	GB-S	シージングせっこうボード	E P-G	つやや合成樹脂エマルションペイント塗り							・ 天井点検口	・ 3－42－2			
9. 天井仕上ボード張りのうち、GB-N C（N T）及びD R（下地GB共）は突付け張りとし、天井回り縁は、アルミ製、天井付き目地とする。	ケイカル板	けい酸カルシウム板（タイプ2）	E P	合成樹脂エマルションペイント塗り	・ と い	・ 5－31、32、33		・ たてどい	・ φ100（ステンレス製） （バンドレスタイプ）		・ 床点検口	・ 既製品	・ 断熱材打込み	・ 7－01－1	・ 7－01－2
10. 直接地業工事に接する内部床のコンクリート下地には、防湿層としてポリエチレンフィルム厚0.15の敷込みを行う。ただし、床仕上げがビニル床タイル、ビニル床シート及び合成樹脂塗床、床用塗料の場合とする。	D R	ロックウール化粧吸音板	U C	ウレタン樹脂ワニス塗り	・ ルーフドレン	・ 5－32－1					・ 便所へだて	・ 既製品	・ 6－22－1		
11. 打放し仕上げの出隅部分は、面取りを行う。	D R（凹凸）	ロックウール化粧吸音板	O S	オイルステイン塗り		・ 5－33－1					・ 躯体不自由者便所	・ 6－23－1、2、3、4	・ 押 入	・ 6－46－1	
	D R（軒天）	ロックウール化粧吸音板	S O P	合成樹脂調合ペイント塗り	・ トップライト	・ 図 示					・ 便所手すり	・ 6－22－5、6	・ ホイストレール	・ 図 示（溶融亜鉛メッキ）	
	D R（軒天凹凸）	ロックウール化粧吸音板	N A D	アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り	・ E X P. J全物	・ 既製品		・ 足洗い場	・ 図示		・ トラフ	・ 1－21－	・ クレンガーダー	・ 図 示（溶融亜鉛メッキ）	
	P F板	押出法ポリスチレンフォーム保温材	L E	ラッカーエナメル塗り	・ 手すり	・ アルミ（図示）		・ マンホール蓋	・ 図示		・ 搬入口	・ 図 示	・ マンホール蓋	・ 図 示（土木工事）	
	木毛板	木質系セメント板	W P	木材保護塗料塗り		・ ステンレス（図示）		・ 合成木材製蓋	・ 図示		・ タップ	・ 8－31－1	・ 室名札	・ 8－43－1	
	T B	テラゾーブロック				・ スチール（図示）		・ 角差し	・ 図示		・ 足掛金物	・ 図示	・ ビクトグラフ	・ 8－44－1	
	外装薄塗材（E）	外装合成樹脂エマルジョン系薄付け仕上塗材			・ 旗 竿	・ 図 示		・ 落し込み式取手	・ 図示		・ フック	・ 図示	・ 庁舎案内板、各階案内板	・ 8－41－1	
	C（B）	コンクリート打放し（B）			・ くつろぎマット	・ 8－21－1、2、3		・ ステンレス製蓋	・ 図示		・ グレーチング受枠	・ 図示	・ 下足箱	・ 図示	
	C（C）	コンクリート打放し（C）			・ タラップ	・ 8－31－1、2、3		・ 丸理	・ 図示		・ 浴室まわり	・ 6－31－			
	M	モルタル			・ 屋上点検口	・ 図示		・ 室外機基礎	・ 5－22－2						
	軽量吹付	軽量骨材仕上塗材						・ 足掛金物	・ 図示						

[illegible][illegible]

										工事番号		公セ補 第5-撤高-5号		図面番号		A4- 1	
										工事名		下水道センター 耐水化対策(建築)工事					
										施工地名		上越市大字藤野新田					
										図面名		水処理棟 階段室 耐水化改修 仕上表					
										縮 尺		—					
										設計年月日		令和 7年 2月 28日					
												新 潟 県 上 越 市					

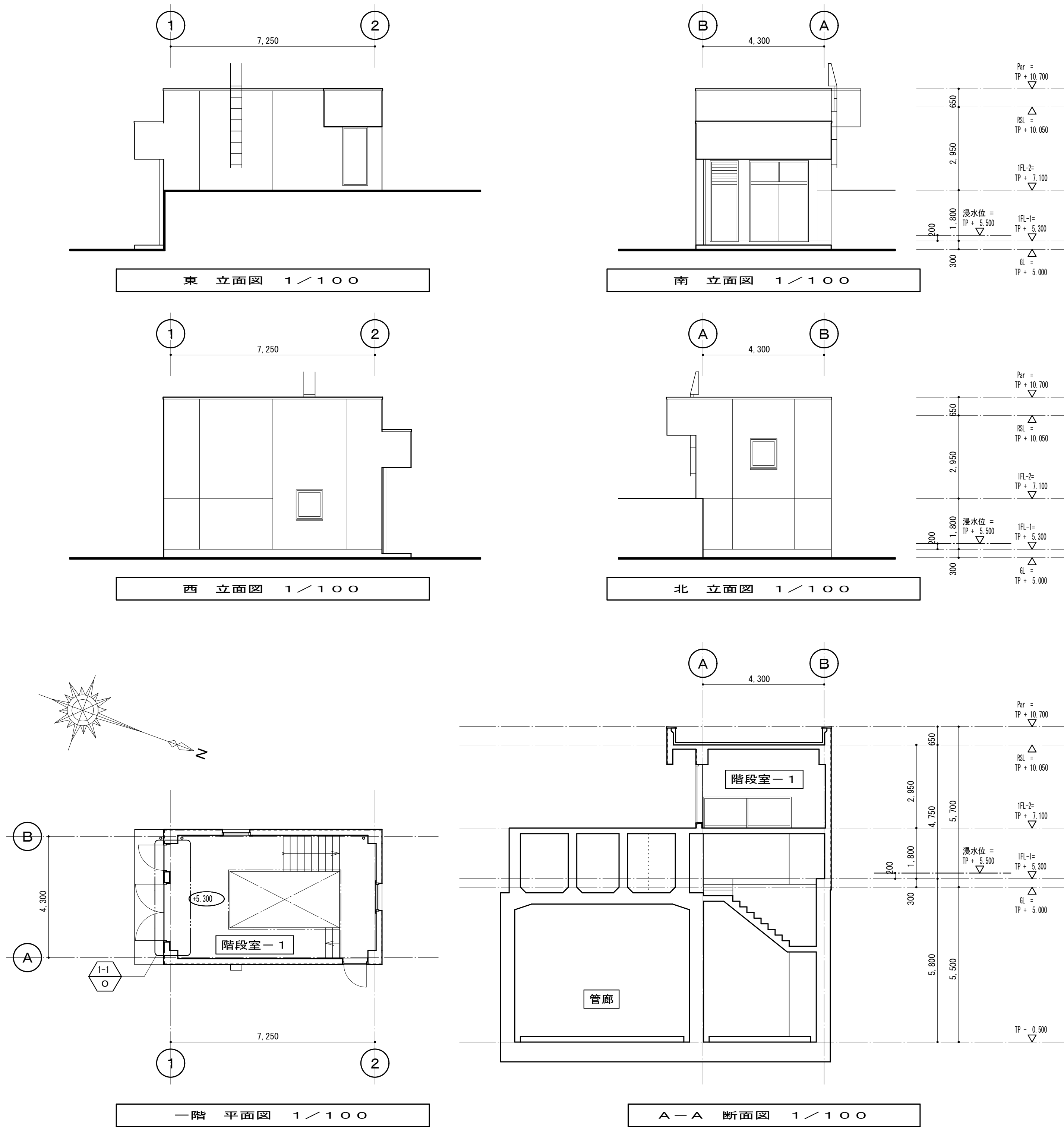
凡例									
特記なき限り  改修対象範囲を示す。  アスベスト含有建材レベル3を示す。									

改 修 後 の 材 料 の 厚 さ	材 料 名	種別	壁(m/m)	天井(m/m)	備 考	材 料 名	種別	壁(m/m)	天井(m/m)	備 考	工 事 区 分 略 号	< >  : 土工工事	改 修 内 容 凡 例	改 修 前		改 修 後	
	GB-R	仕上	1 2 . 5	1 2 . 5	NM-8 6 1 9	けい酸カルシウム板(タイプ2)		1 2	1 0	NM-8 5 7 8		< >  : 建築機械設備工事		A : 仕上撤去	a : 仕上新設		
		下地	1 2 . 5			押出法ポリスチレンフォーム保温材		2 5	2 5			< >  : 建築電気設備工事		B : 図示の仕上撤去	b : 図示の仕上新設		
	GB-NC(N)	下地		9 . 5	NM-8 6 1 3 又は同等	壁紙						< >  : プラント機械設備工事		C : 下地共撤去	c : 下地共新設		
	GB-NC(NT)			9 . 5								< >  : プラント電気設備工事		D : 図示の下地共撤去	d : 図示の下地共新設		
	GB-D(W)			1 2 . 5	NM-8 6 1 4							E : 図示の下地調整		e : 図示の塗装塗り替え			
	DR			1 2	NM-8 5 9 9							F : 既存のまま		f : 既存のまま			



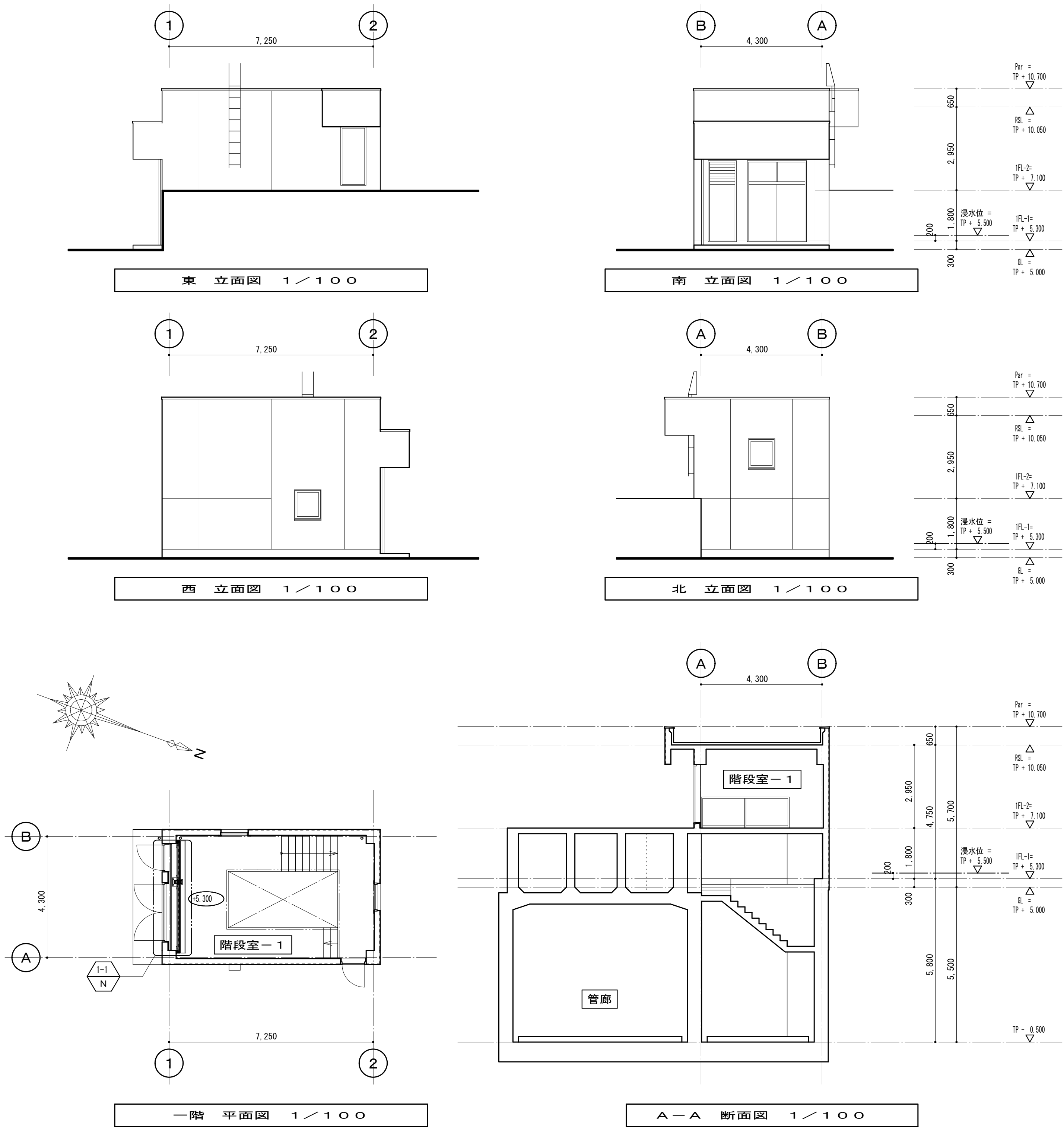
改 修 前

改 修 後



改修内容一覧表

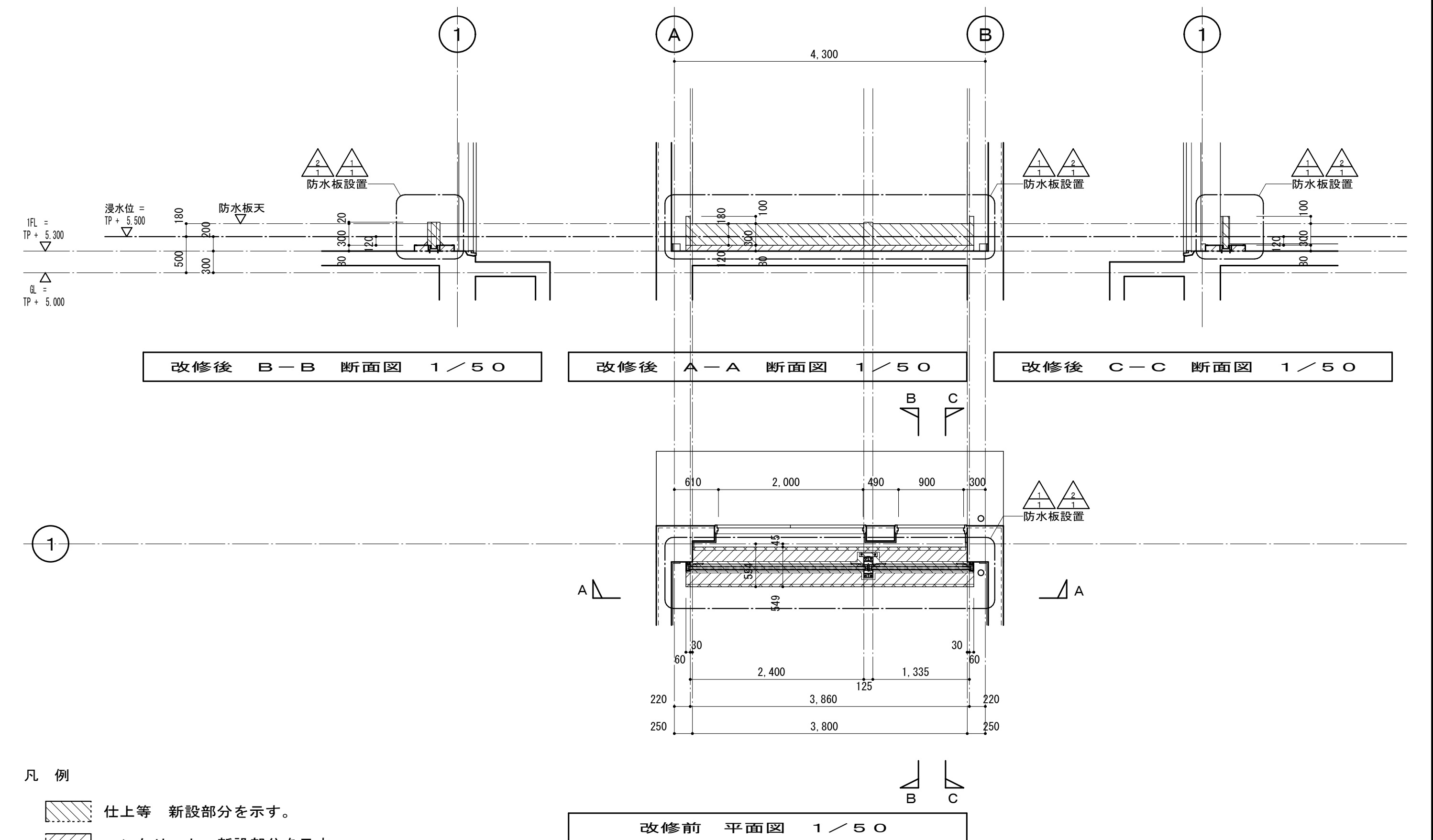
凡 例	改修箇所	改修内容	撤去概要
	1F 階段室-1	防水板 設置	床コンクリート新設部 目荒し



改修内容一覧表

凡 例	改修箇所	改修内容	新設概要
	1F 階段室-1	防水板 設置	防水板 新設 床コンクリート 新設

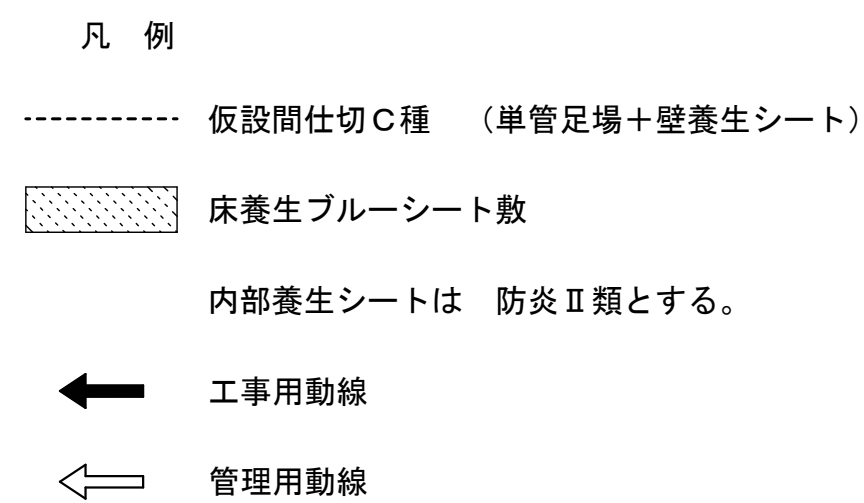
工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A4- 2
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	水処理棟 階段室 耐水化改修 平面図・立面図・断面図		
縮 尺	1/100		
設計年月日	令和 7 年 2 月 2 8 日		
新潟県上越市			



仮設図

1 / 100

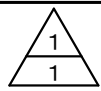
改 修 前



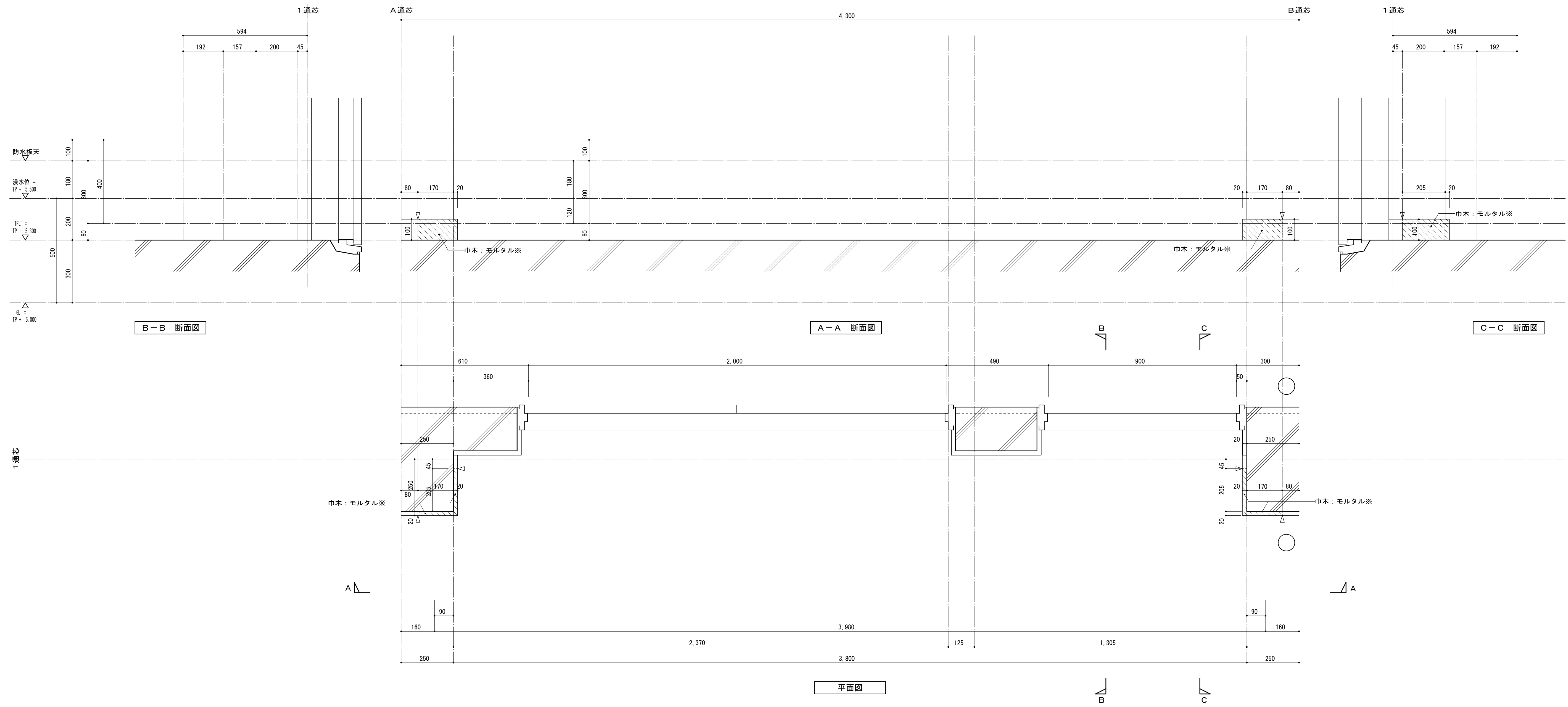
注 記


- ・仮設計画については、参考とする。
- ・仮設間仕切り・足場等は、現場にて監督員と調整のこと。
- ・足場の存置日数は、３０日とする。

工事番号	公設補 第5-候番-5号	図面番号	A4- 3
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	水処理棟 階段室 耐水化改修 部分詳細図、仮設図		
縮 尺	1/50・100		
設計年月日	令和 7 年 2 月 2 8 日		
新潟県上越市			



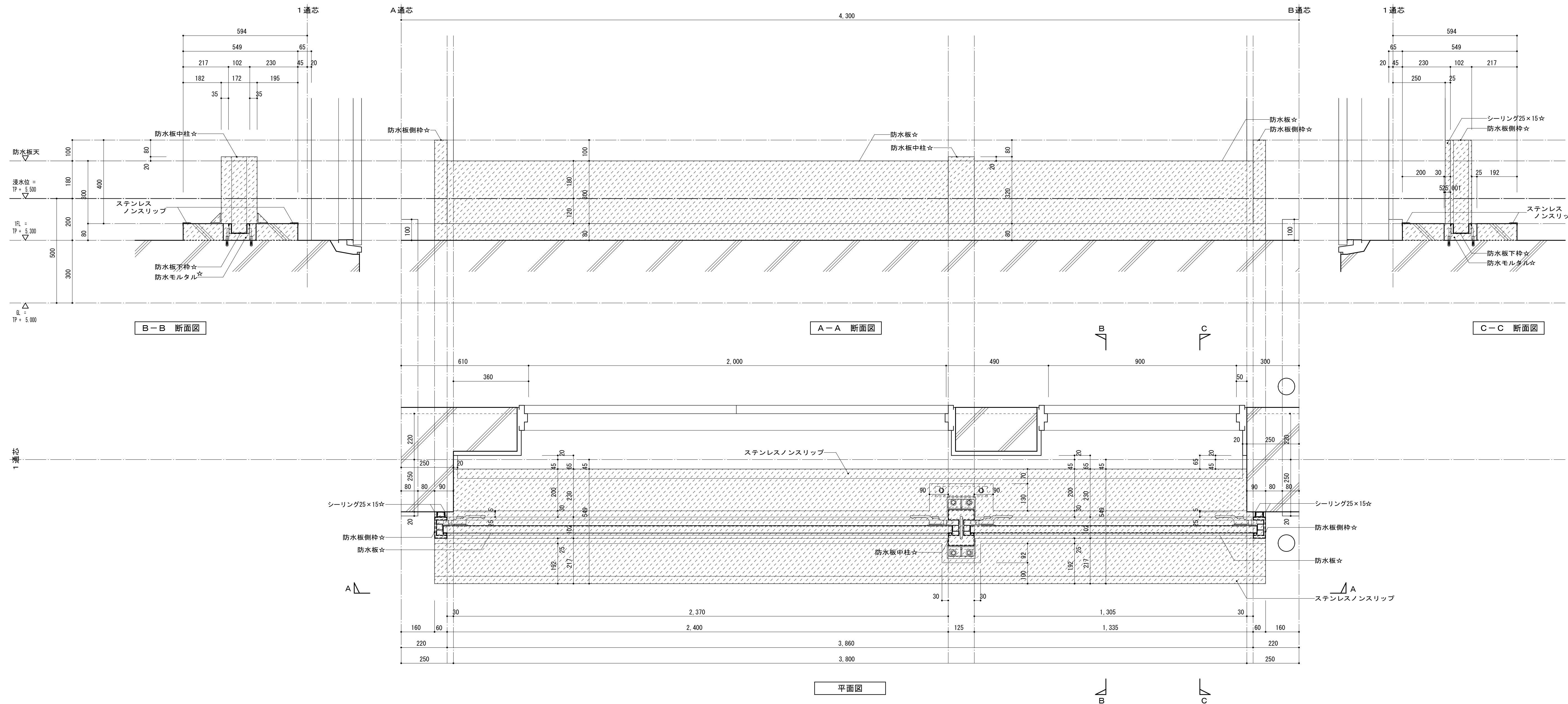
改修前



注 記	※印は、撤去部分を示す。			
	仕上は 仕上表による。		印は、撤去部分を示す。	
	＜印は、カッター入れを示す。		印は、無筋コンクリートを示す。	
	モルタル・コンクリート撤去部は カッター入れの上撤去に事。		印は、鉄筋コンクリートを示す。	
		本図は 参考図とし、施工図にて確認上決定の事。		

工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A4- 4
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	水処理棟 階段室 耐水化改修 雑詳細図（1）		
縮 尺	1 / 10		
設計年月日	令和 7 年 2 月 2 8 日		
新 潟 県 上 越 市			

改修後

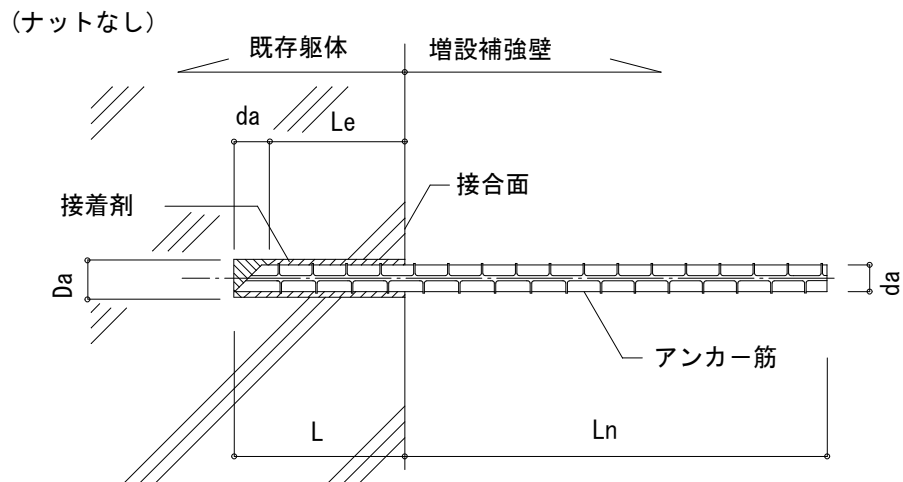
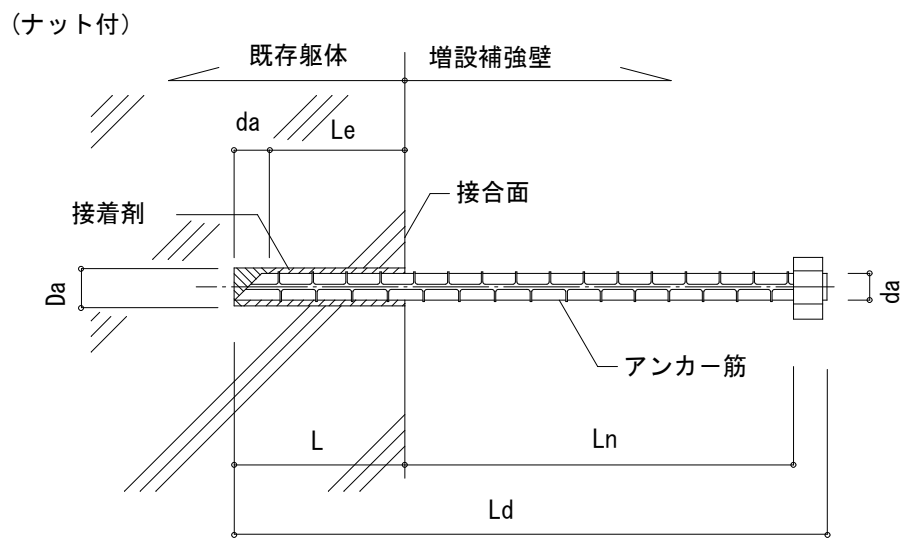


注	記	表記部分は、新設部分を示す。	印は、新設部分を示す。	床部コンクリート新設部の アンカー・配筋は 構造図による。
		仕上は 仕上表による。	新設鉄筋コンクリート部 既設コンクリートとの接触面は目荒しを行う事。	新設部コンクリート部仕上 床面：コンクリート直均し（a）、立上り：コンクリート打放し（B）
		☆印は 防水板工事を示す。	防水板は、(株)日本アルミ 脱着式防水板同等品とする。	印は、無筋コンクリートを示す。
			防水板下枠には、ステンレス蓋付とする。	印は、新設鉄筋コンクリートを示す。
			本図は 参考図とし、施工図にて確認上決定の事。	

工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A4- 5
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	水処理棟 階段室 耐水化改修 雑詳細図（2）		
縮 尺	1 / 10		
設計年月日	令和 7 年 2 月 2 8 日		
新 潟 県 上 越 市			

あと施工アンカー

(1) 接着系アンカー



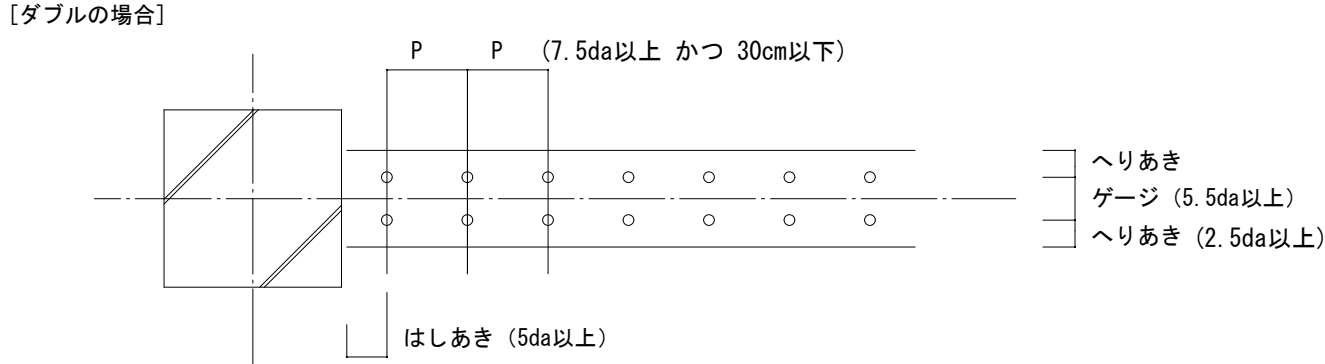
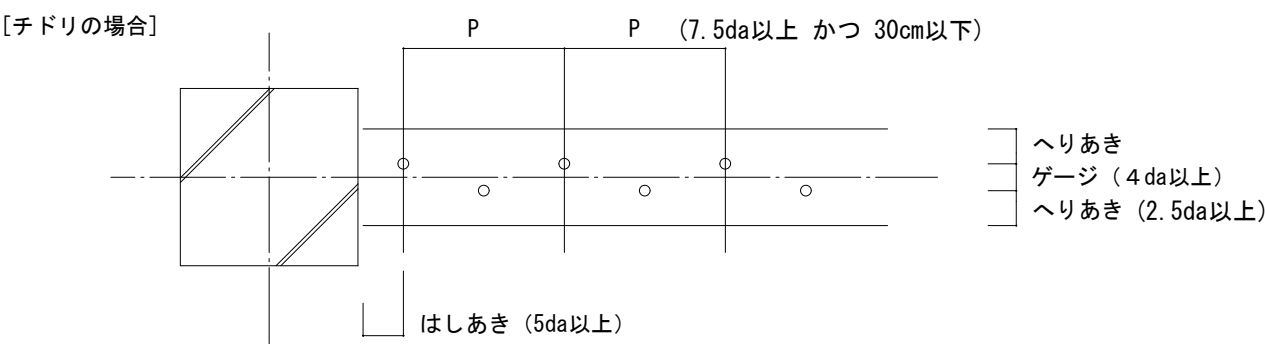
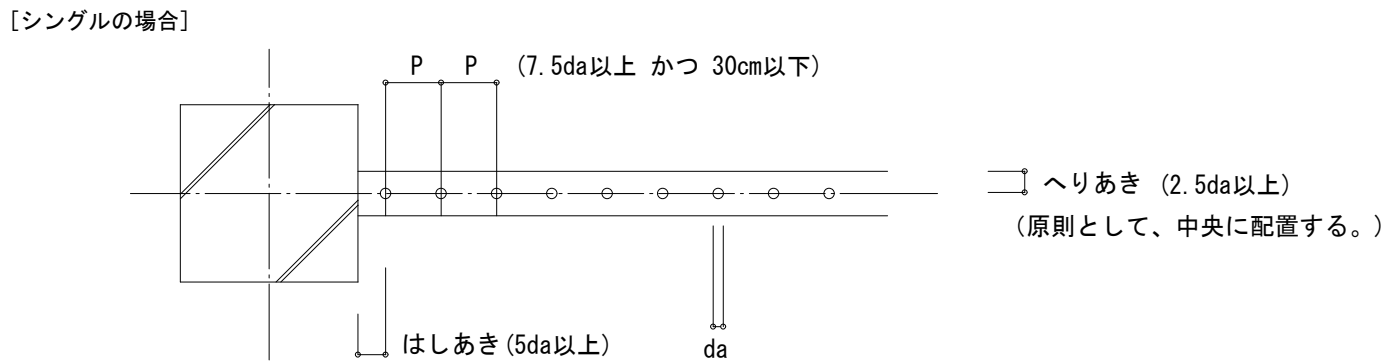
L : コンクリートの穿孔深さ、または接着系アンカーの埋め込み長さ  
Le : アンカーの有効埋め込み長さ  
Ld : アンカー筋の全長  
Ln : 有効定着長さ  
Da : 既存コンクリート躯体への穿孔径  
da : アンカー軸部の直径、アンカー筋の呼び名

アンカー関係共通事項		
接着系アンカーの有効	埋め込み長さ	一般部 : $L_e = 7 d_a$ 開口補強筋 : $L_e = 10 d_a$
	定着長さ	一般部 : $L_n = 20 d_a$ 開口補強筋 : $L_n = L_1 + 5 d_a$ (=補強筋との継手長さ+ナット山)
アンカー筋形状	ナット付き異形棒鋼(開口補強筋用はナットなし)とし、ナットからねじ山が2山以上でること。 また、先端形状は45°カットとする。	

施工確認試験荷重 (確認強度)		
アンカー筋呼び名 (da)	アンカーの有効埋込長さ (Le)	荷 重 (kN) 2/3をかけた値
D [ 13 ]	[ 7 ] da	[ 20.9 ]
D [ 13 ]	[ 10 ] da	[ 24.9 ]
D [ 16 ]	[ 7 ] da	[ 31.6 ]
D [ 16 ]	[ 10 ] da	[ 39.0 ]
D [ 19 ]	[ 7 ] da	[ 44.6 ]
D [ 19 ]	[ 10 ] da	[ 65.9 ]
D [ 22 ]	[ 7 ] da	[ 59.7 ]
D [ 25 ]	[ 10 ] da	[ 116.5 ]

確認強度は、計算で得られた、アンカーの鋼材による引張荷重又はコンクリート破壊による引張荷重(埋込みピッチ及びへりあきの影響を受ける場合は、低減した荷重)の小さい方の2/3程度の荷重。

(2) あと施工アンカーの位置と間隔



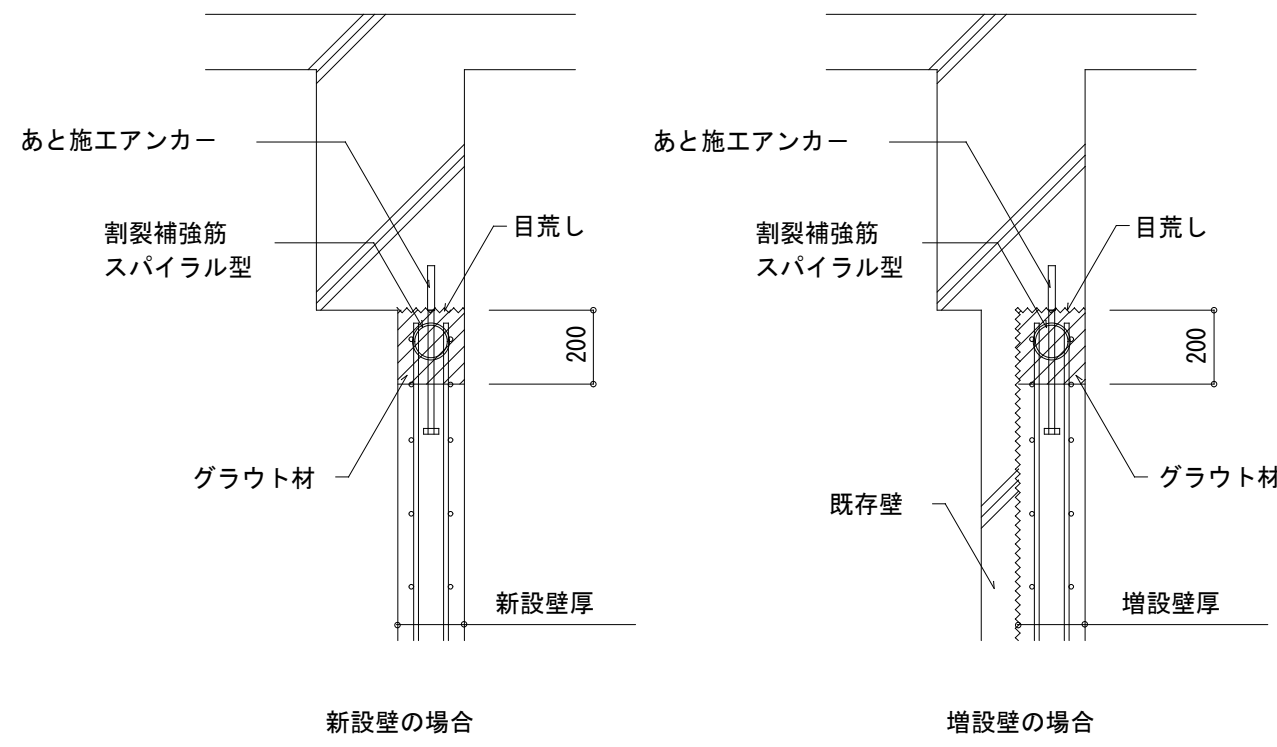
割裂補強筋配筋要領

- 割裂補強筋は、改修壁の柱・梁に接する面全てに配置する。
- 割裂補強筋は、スパイラル型とし、ピッチ、スパイラル径は下記による。
- 継手は、2巻以上の重ねとする。

壁 厚	スパイラル径	割裂補強筋	備 考
180	100	Φ6@50	
200	120	Φ6@50	
220	140	Φ6@50	
300	220	Φ6@50	

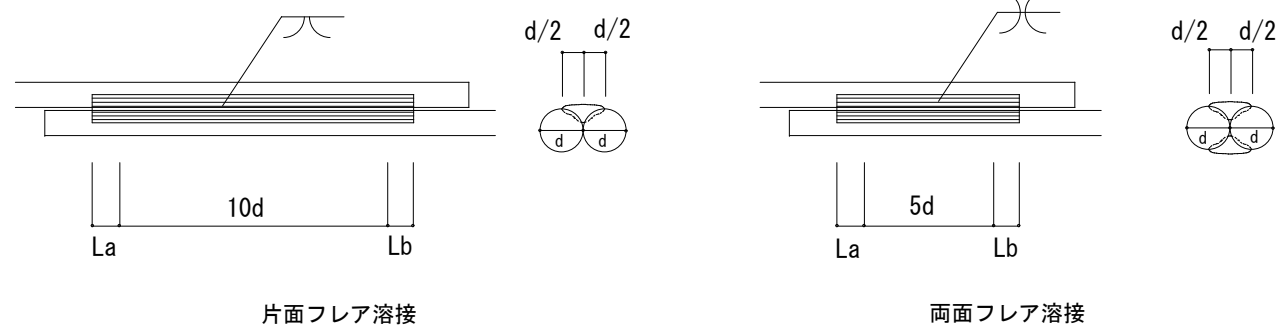
新設・増設壁上部グラウト要領

- 特記なき新設・増設壁上部は、グラウトを行う。

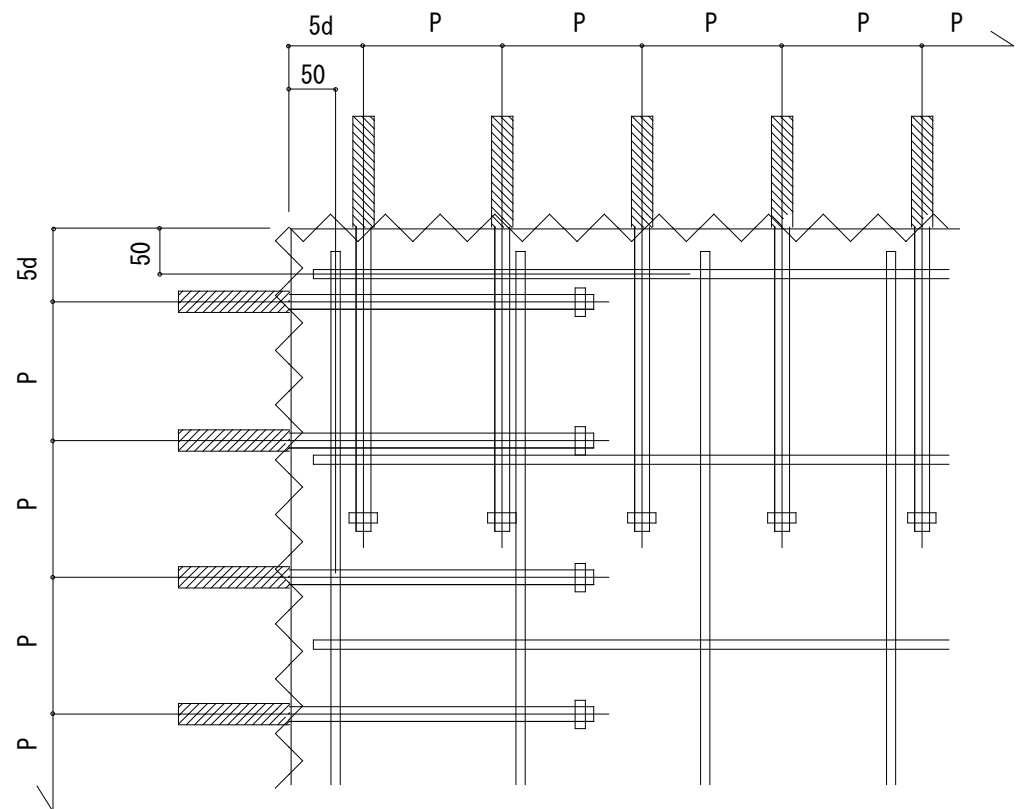


鉄筋フレア溶接要領

- 特記なき鉄筋のフレア溶接は、下図の片面または両面とする。
- 鉄筋のフレア溶接の溶接長さは、ビードの始点 (La) 及び、クレータ (Lb) を除いた部分の長さとする。但し、La 及び Lbは 2d以上とする。



アンカー筋ピッチ標準



既存壁等撤去要領図

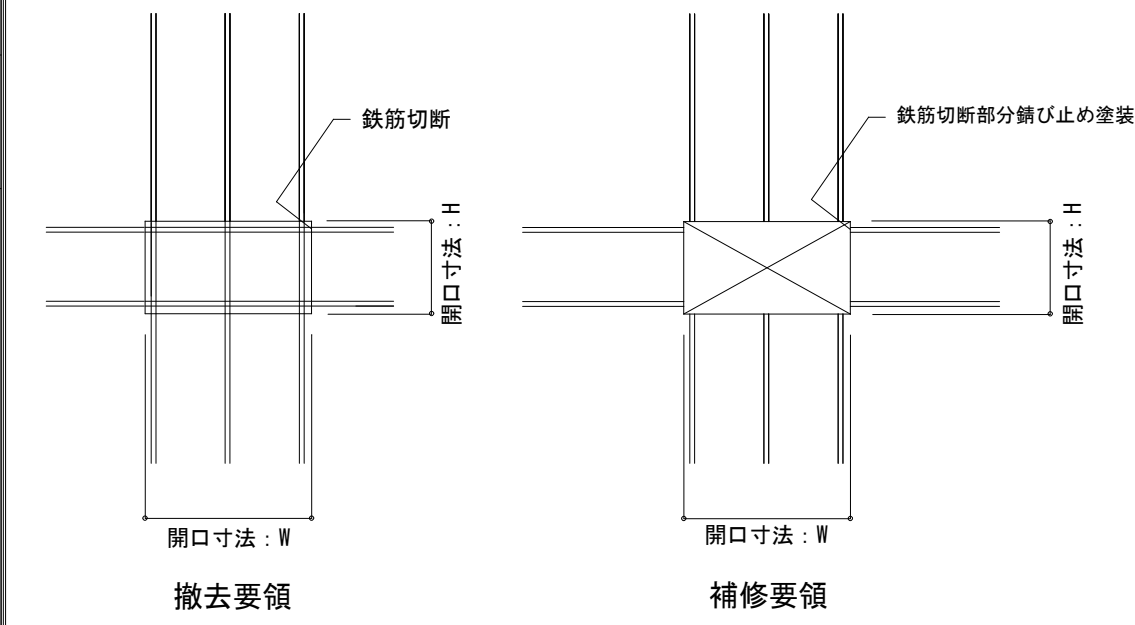
注記) 特記なき壁等の撤去は下図による。  
注記) ≧印は、コンクリートカッター位置を示し、カッター深さ30とする。  
注記) 鉄筋切断部には、錆止め塗装を行う。  
注記) 鉄筋はつり出しは、特記による。

撤去壁-梁 取合部 (撤去のみの場合)	撤去壁-スラブ 取合部	撤去壁-梁 取合部 (壁を新設する場合)
撤去壁-柱 取合部 (撤去のみの場合)	撤去壁-直交壁 取合部	撤去壁-柱 取合部 (壁を新設する場合)
撤去庇-梁 取合部		

新設壁開口配筋要領図 (※註：意匠図による)

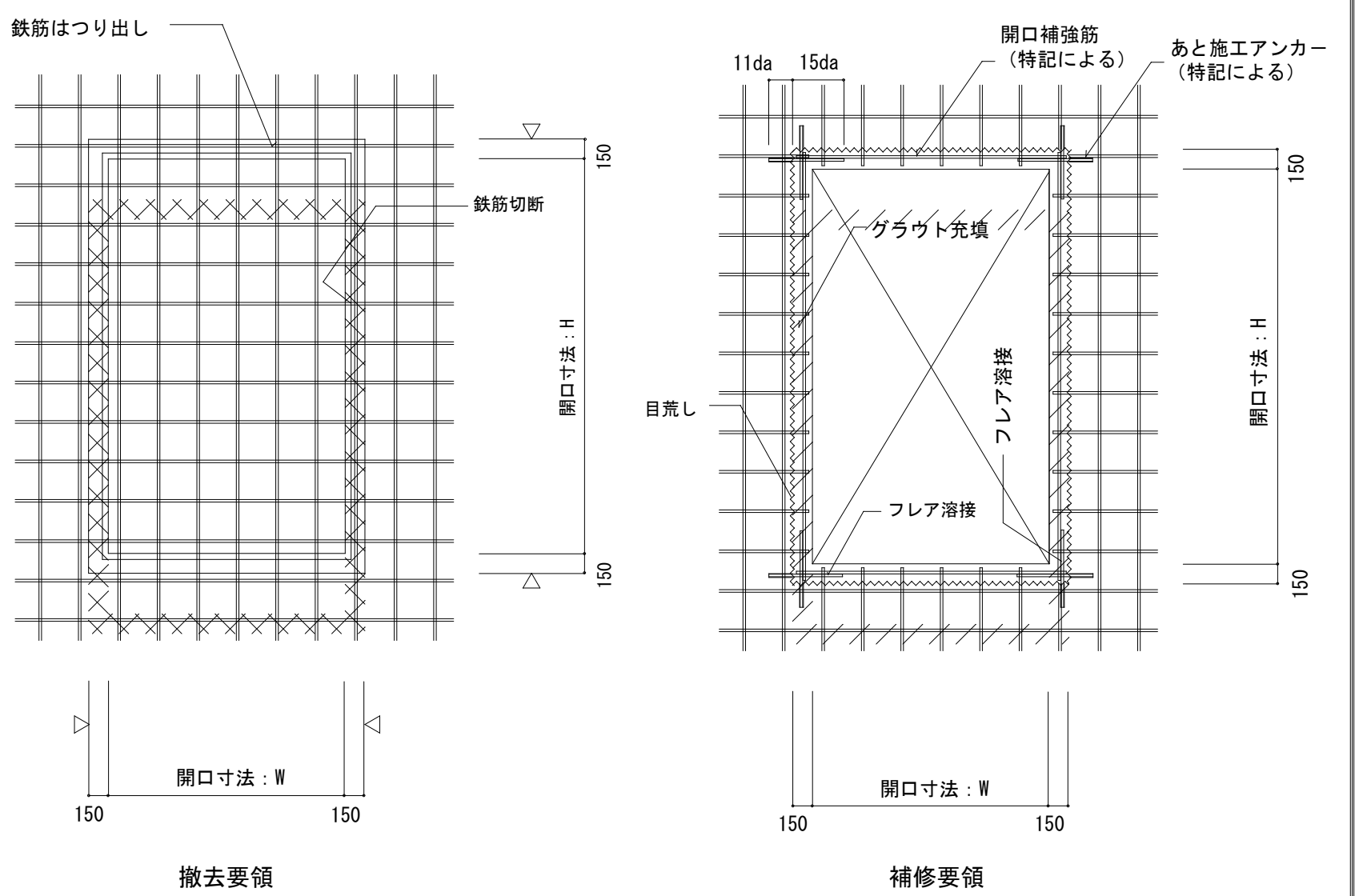
- 床・壁にコア抜きにより先導孔を開ける。
- 各開口寸法に合わせ、コンクリートカッター及び、はつり出しにより開口部を開ける。
- 小開口部は切断面の補修 (錆び止め塗装) を施す。  
大開口部はあと施工アンカーにより、開口補強筋を設ける。  
開口補強筋を取り付けた後、内型枠に合わせグラウト材を充填する。

○小開口部 ・適用は特記による。



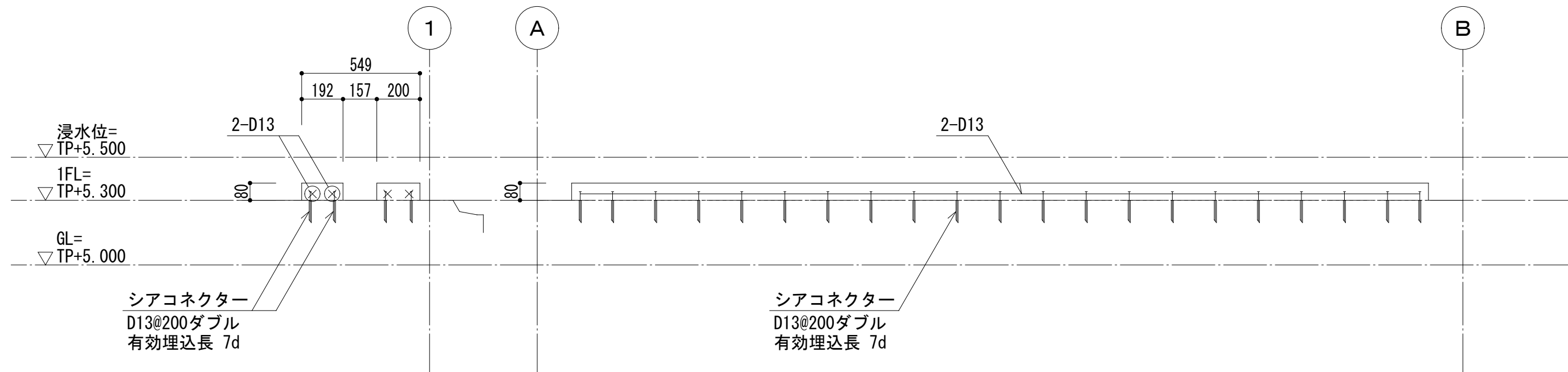
- 参考図書  
「2017年改訂版 既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計指針 同解説」  
日本建築防災協会／国土交通大臣指定耐震改修支援センター  
※第3章 補強部材・部位の設計  
※第4章 補強工事の施工

○大開口部 ・適用は特記による。



注記) ≧印は、コンクリートカッター位置を示し、カッター深さ30

工事番号	公セ補 第5機高5号	図面番号	S4-01
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	水処理棟 階段室 改修標準詳細図		
縮 尺	—		
設計年月日	令和 7 年 2 月 28 日		
新 潟 県 上 越 市			



1 通り A-B 間

新設鉄筋コンクリート部の既設コンクリートとの接触面は目荒しを行う事。

工事番号	公セ補 第5機高5号	図面番号	S4-02
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	水処理棟 階段室 構造図		
縮 尺	1/20		
設計年月日	令和 7 年 2 月 28 日		
新 潟 県 上 越 市			